

事業報告書



## 1. 法人本部拠点



## 1. 法人内事業所と事業内容

### ○第二種社会福祉事業

事業所名	事業内容
介護老人保健施設ルミナス大府	入所により在宅復帰を目指し、リハビリを中心とした看護、介護サービスを提供している。 また、在宅の高齢者が通いによる身体機能の維持、向上に向けたサービスを提供している。
グループホーム・ルミナス大府	認知症を発症した高齢者の方々が、少人数で共同生活を営むための介護サービスを提供している。
認知症介護研究・研修大府センター	認知症介護に関する実践的な研究と認知症介護に関する指導者の養成を行っている。
障害者福祉施設サンサン大府	障がいのある方の社会生活の自立に向けた就労支援サービスを提供している。

### ○公益事業

事業所名	事業内容
訪問看護ステーションルミナス大府	自宅に看護師が出向き、医師の指示による医療処置等の看護ケアを行っている。

## 2. 役員会等の開催

### ○理事会

日時	審議事項
R02.06.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度事業報告及び決算報告について</li> <li>理事の選任候補者(案)の提案について</li> <li>定時評議員会の開催日時及び場所、議題等について (開催を省略・書面決議)</li> </ul>
R02.09.18	<ul style="list-style-type: none"> <li>監事の選任候補者(案)の提案について (開催を省略・書面決議)</li> </ul>
R02.11.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度第1次補正予算(案)について</li> <li>職員給与規程の一部改正(案)について</li> <li>評議員会の開催日時及び場所、議題等について</li> </ul>
R03.02.19	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度第2次補正予算(案)について</li> <li>令和3年度事業計画(案)及び予算(案)について</li> <li>重要な役割を担う職員の選任(案)について</li> <li>評議員会の開催日時及び場所、議題等について (開催を省略・書面決議)</li> </ul>

## ○評議員会

日 時	審 議 事 項
R02.06.22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度事業報告及び決算報告について</li> <li>・理事の選任候補者(案)について (開催を省略・書面決議)</li> </ul>
R02.09.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・監事の選任候補者(案)について (開催を省略・書面決議)</li> </ul>
R02.12.02	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度第1次補正予算(案)について</li> </ul>
R03.03.12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度第2次補正予算(案)について</li> <li>・令和3年度事業計画(案)及び予算(案)について</li> </ul>

## 3. 監査の実施

監査名	日 時	実 施 内 容
年次監査	R02.05.20 R02.05.21	・令和元年度事業報告、決算報告の検査
定例監査	R02.08.07 R02.11.05 R03.02.09	・事業進捗状況検査、月次出納検査

## 4. 本部主催行事

行事名	日 時	人数等	実 施 内 容
辞令交付式	R02.04.01	2名	新規採用職員並びに昇格職員に辞令交付を行った。
永年勤続職員表彰式	R02.04.01	14名	勤続期間が20年(12名)、10年(2名)を経過した職員に、表彰状及び記念品を授与した。

## 2. ルミナス大府拠点





## 1. 総括

- (1) 介護老人保健施設ルミナス大府は、目標入所率 95%に対して実績は 94%でした。7月～9月に 93%台と落ち込みましたが、11月以降は 95%以上で推移しました。
- (2) 介護老人保健施設の役割である在宅支援機能を一定の基準で満たしたため年間を通して在宅復帰・在宅療養支援機能加算を算定することができました。
- (3) 通所リハビリテーションは目標 1日平均 38人に対して 31.2人でした。内訳は1日コース 25.5人、短時間コース 5.7人でした。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令で4月～7月にかけて利用者が大幅に減少しました。休止による ADL 低下を防ぐために一時的に訪問リハビリを実施しました。
- (4) 訪問看護は月平均の目標件数 280件に対して 324件と大幅に増加しました。2月の看取りは6件と多く1年間で看取りを行う件数に近いものでした。新型コロナウイルス感染症による受診や入院を控え、自宅で看取りを選択した結果と考えられます。
- (5) グループホームは年間を通して利用率は安定しました。
- (6) 各種委員会を毎月開催し質の高いサービス提供に努めました。  
新型コロナウイルス感染症に対しては感染管理委員会を毎月に加え適宜開催し感染対策を徹底するとともに施設独自の感染マニュアルを策定しました。感染状況によりマニュアルを見直し現在も継続しています。また厚生労働省の感染対策による補助金を活用し感染対策をさらに徹底しました。
- (7) 高齢者虐待・身体拘束においては毎月会議を開催し身体拘束適正化に向けて取り組みました。事故防止委員会では転倒要因を分析し再発防止に努めました。また福祉用具の評価検討を行い適切な利用法によるケアを実施しました。業務の簡略化と転倒要因をデータ化することを目的として事故報告書の見直しを行いました。
- (8) ホームページと機関紙を活用した PR 活動を促進しました。2年度はコロナ感染対策として中日新聞に2回掲載、ケーブルテレビに1回報道されました。
- (9) 情報共有と業務の効率化を一層推進するために情報伝達手段として ICT 化を進めました。
- (10) 介護負担の軽減及び介護の質の更なる向上を図るため、介護ロボット Hug を導入しました。

## 2. 新型コロナウイルス感染症対策

### (1) 感染管理委員会

施設の感染対策活動の中核的な役割として感染管理委員会を設置しました。日常的な感染対策から発生時の対応及び施設の感染対策に対する問題点を把握し改善点を講じるなど施設の感染対策を早期に検討し決定しました。委員会の開催頻度は状況に応じて適宜実施しました。

### (2) 感染症対策マニュアルの策定

感染症を総合的に分析し利用者及び職員の感染対策、発生時の対応、連絡体制などを部署毎に策定し対策全般の対処方針をまとめました。感染症対策マニュアルは事態の変化に伴い適宜改訂を行いました。

### (3) 保健所及び県の派遣応援チームとの連携構築

保健所と定期的に連絡調整と近隣の感染状況の把握及び感染対策に対する助言を受けながら早期の感染対策を講じることで予防の徹底に努めました。

感染者発生に伴う職員不足に対応できるように愛知県の派遣応援チームへ登録しました。

### (4) 近隣施設、医療機関との情報共有

近隣施設と常に情報交換を行い感染予防、発生時の対応などを共有しました。多様な課題に連携して、取り組めるように近隣施設間のネットワークを構築し検討を行ってきました。

### (5) スタッフ間の連絡体制構築

スタッフ間の連絡体制構築として中部電力が運営している「ビジエネ連絡網」に登録しました。事務局からスタッフに一斉送信することで早期の情報共有、早期に感染対策に努めることができました。

### (6) COCOA アプリの導入

厚生労働省が運営する接触アプリ「COCOA」の登録を推進しました。2週間以内に、感染症の陽性者と接触した可能性について、各職員のスマートフォンへ連絡する機能が搭載されたことで早期の感染対策に役立てることができました。一部スマートフォンを持たないスタッフを除いて全職員が登録することができました。

### (7) 宿泊場としての併設施設との連携

施設内で感染者が発生した場合に備えて職員の宿泊場を法人内で検討し、研修者の宿泊機能を持つ認知症介護研究・研修大府センターを活用することとしました。

(8) 感染症対策物品の整備、備蓄

新型コロナウイルス感染症緊急包括支援金を活用し、手袋、マスク、ガウン、消毒液の基本的な感染対策物品の長期備蓄、医療用の HEPA フィルタ付空気清浄機、オンライン面会の電子機器、3密を避けるための送迎車両などを整備しました。

(9) オンライン面会

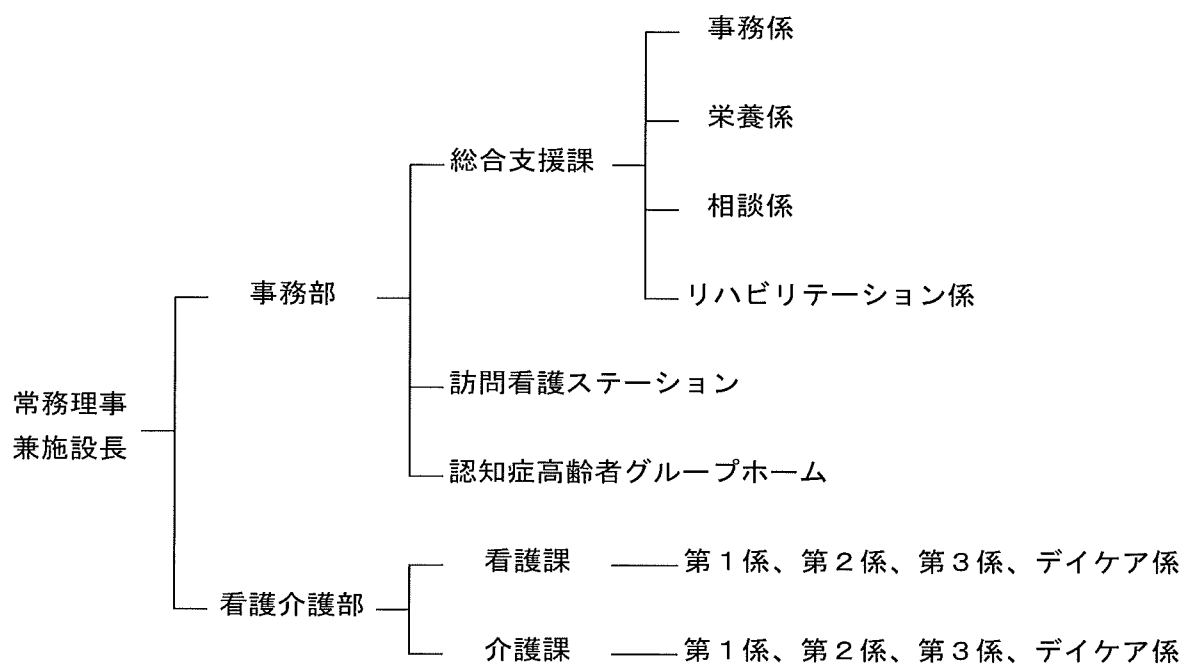
厚生労働省及び愛知県の指導による利用者の外出制限、面会制限に対する新たな取り組みとしてオンライン面会を実施しました。感染状況によりオンライン面会と対面面会と併用して実施しました。

(10) 職員の PCR 検査

愛知県の指示により入所に関わる職員 100 名を対象として令和 3 年 3 月に PCR 検査を実施し全員陰性でした。

### 3. 組織（介護老人保健施設及び併設施設）

令和3年3月31日現在



### 4. 職員実数

令和3年3月31日現在

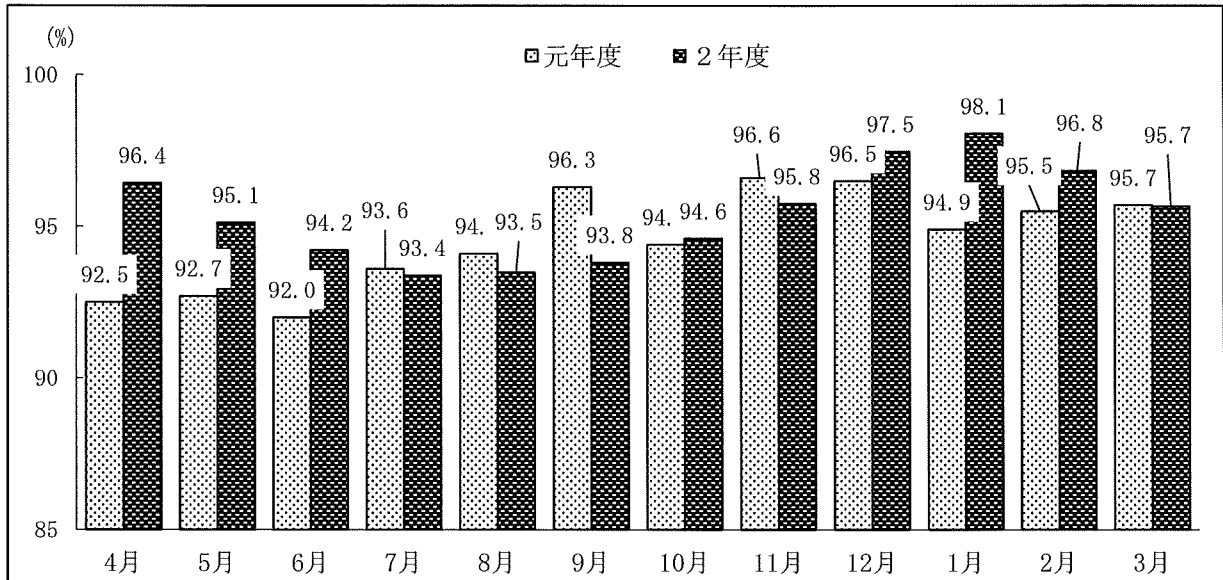
	介護老人保健施設 (通所リハビリテーション・ 訪問リハビリテーションを含む)		訪問看護 ステーション		認知症高齢者 グループホーム	
	常勤換算数	開設基準	常勤換算数	開設基準	常勤換算数	開設基準
施設長 (管理者)	1	1	1	1	1	1
薬剤師	0.35	0.33				
看護職員	12.45	11	4.0	2.5	0.8	3
介護職員	51.40	27			4.6	
支援相談員	4.00	1				
作業・理学療法士	10.00	3				
介護支援専門員	1.00	1			0.1	実数
管理栄養士	1.00	1				
事務職員	3.63	実数	0.6	実数		
施設管理員	0.45	実数				
計	85.28	45.33	5.6	3.5	6.5	4

## 5. 介護老人保健施設ルミナス大府

### (1) 各サービス利用状況

#### ①長期入所 利用状況

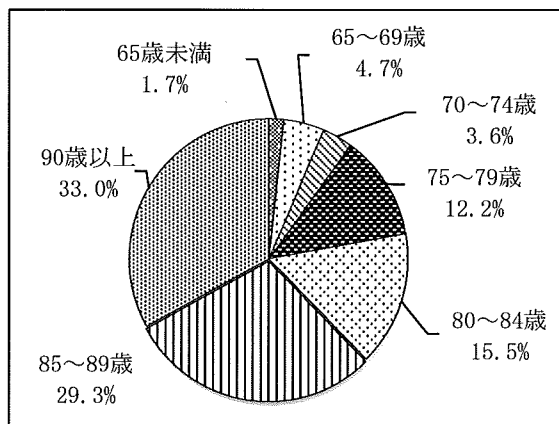
ア. 月別利用率 年間平均 95.4% (元年度 94.6%)



年間平均利用率は 95.3% でした。昨年度と比較して 0.7% 上昇しました。7月～9月は入院者と特養・有料老人ホームへの入所が重なり、93% 台と落ち込みましたが、11月以降は 95% 以上で推移しました。

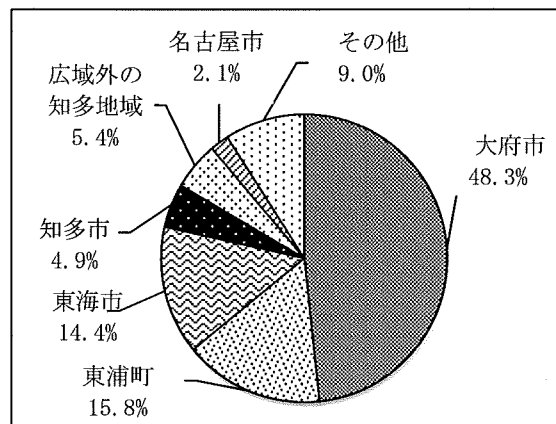
#### イ. 年齢別利用割合

平均 85.6 歳 (元年度 85.6 歳)



85 歳以上の方が約 6 割占めています。

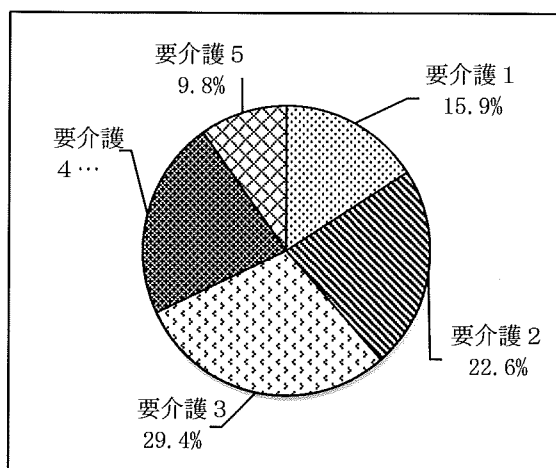
#### ウ. 住所地別利用割合



大府市からの入所者が半数を占めています。次に東浦町 15.8%、東海市 14.4% と続いています。

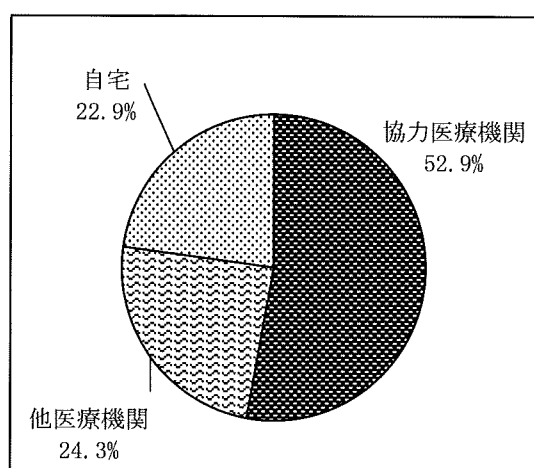
## エ. 介護度別利用割合

平均介護度 2.9(元年度 2.9)



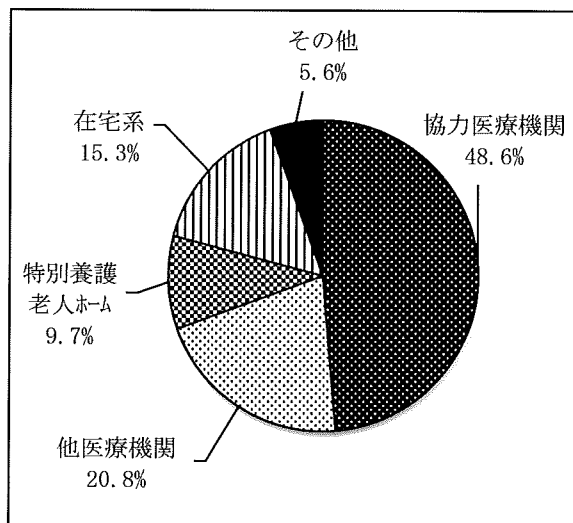
平均介護度は 2.9 でした。要介護 4 以上の方が約 3 割を占めています。

## オ. 入所経路別利用割合



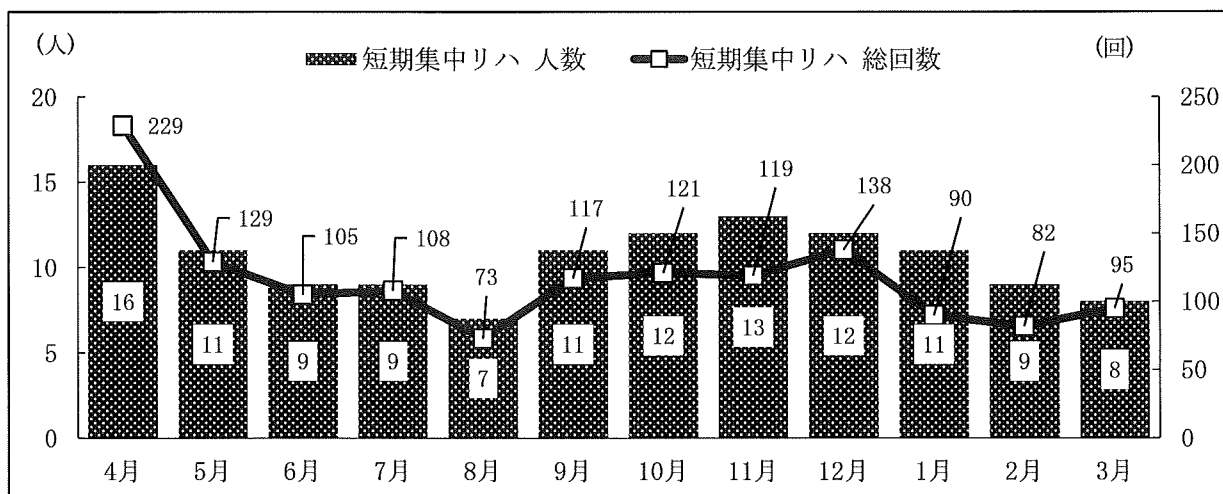
医療機関からの入所が約 8 割を占めています。協力医療機関のうち、大半が長寿医療研究センターからの入所となっています。

## カ. 退所経路別利用割合



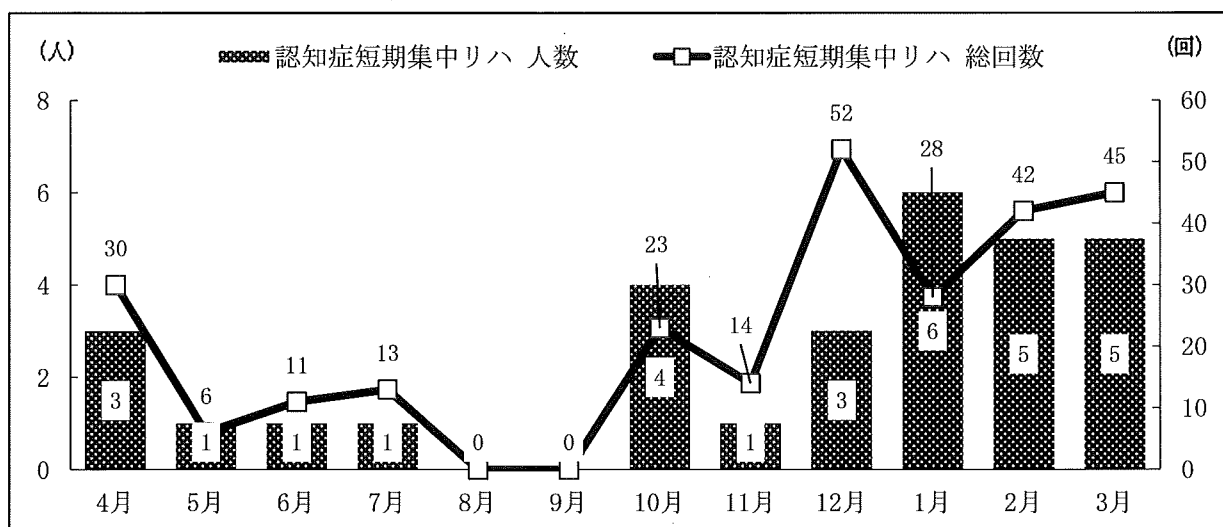
医療機関への退所が最も多く約 7 割を占めています。特別養護老人ホーム 9.7%、有料老人ホームを含めた在宅系への退所は 15.3% になっており在宅復帰は前年度から 2.2% 減っています。要因としては新型コロナウイルス感染拡大をうけて家族など受け入れる側も在宅を不安視され在宅復帰が消極的となった事があげられます。

キ. 長期入所 短期集中リハビリテーション加算 実施人数と実施回数  
 月平均人数 10.7名 (元年度 11.7名) 実施率 100%



短期集中リハビリテーション加算の実施数は月平均 10.7 人、月平均回数 117 回でした。新規入所者に対する実施率は 100% で全員に短期集中リハビリを実施できました。

ク. 長期入所 認知症短期集中リハビリテーション加算 実施人数と実施回数  
 月平均人数 2.7人 (元年度 3.4人) 実施率 93.5%



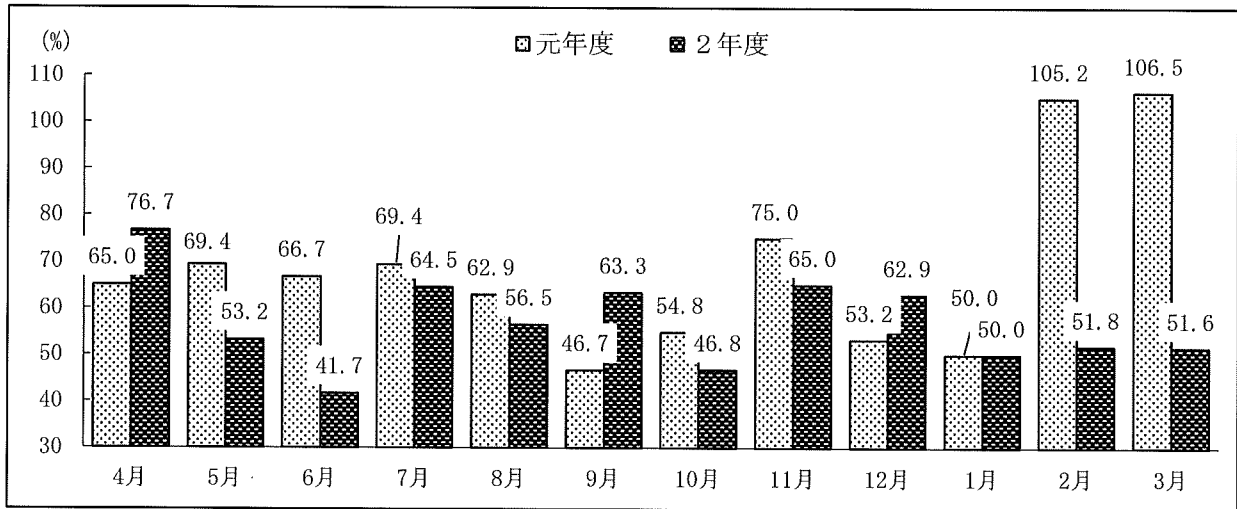
認知症短期集中リハビリテーション加算の実施数は、月平均 2.7 人、月平均回数 22 回でした。対象となる利用者の実施率は 93.5% でした。

②短期入所 利用状況

ア. 各月利用率 年間利用率 57.0% (元年度 68.6%)

短期入所の床数を平成30年度より2床で運営しています。

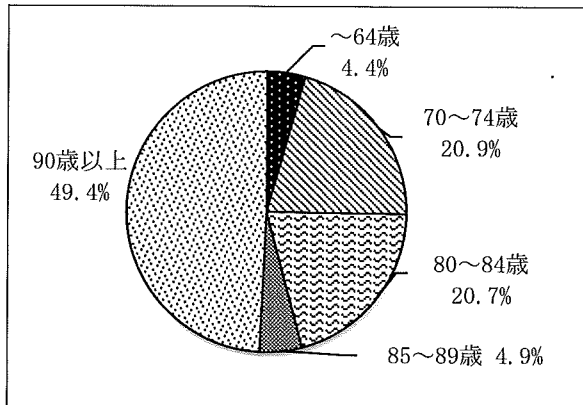
利用実人員・延利用日数 21人 500日 (30年度 29人 840日)



短期入所ベッド数2床に対する利用率は57%でした。昨年度に比べて11.6%減少しました。要因として体調不良によりキャンセルが多かった事と在宅からの新規利用者受け入れについて、感染予防対策による制限等のため、新規利用者の獲得が十分にできなかったことがあげられます。

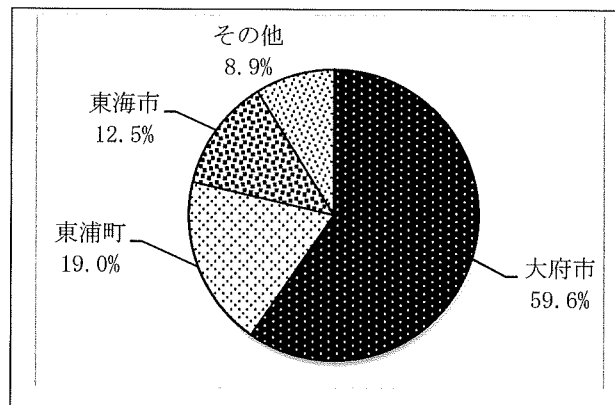
イ. 年齢別利用割合

平均 84.0 歳 (元年度 84.0 歳)



90歳以上の方が約半数を占めています。

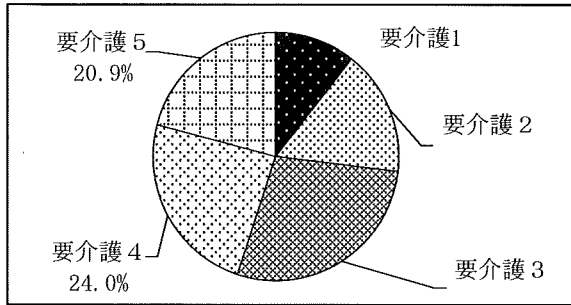
ウ. 住所地別利用割合



大府市在住の方が約6割を占めています。



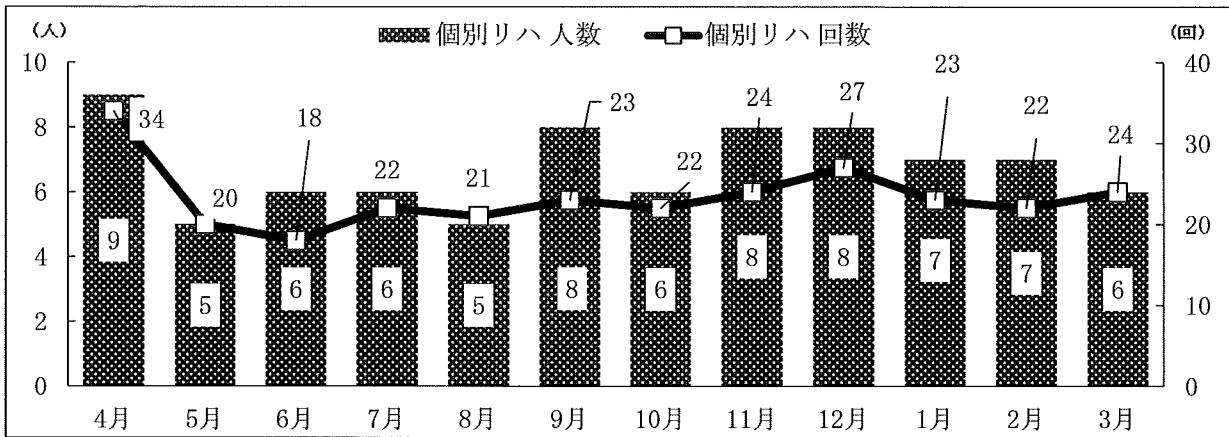
エ. 介護度別利用割合 平均 3.2 (元年度 3.4)



平均介護度 3.2 と入所 2.9 よりも介護度が高い状況でした。要介護 4 以上の方が約 4 割強を占めています。

オ. 短期入所 個別リハビリテーション加算 実施人数と実施回数

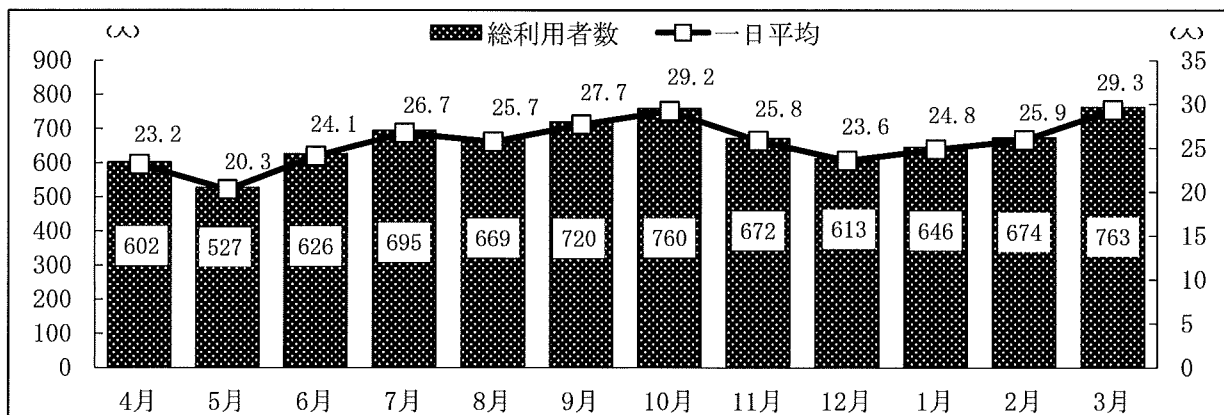
月平均人数 6.8 人 (元年度 6.3 人) 実施率 92.3%



短期入所者への個別リハビリテーション実施数は月平均 6.8 人、月平均回数 23.3 回でした。短期入所中体調が安定しない利用者もいました。居宅の介護支援専門員のケアプラン上で設定されている予定回数に対する実施率は 92.3% でした。

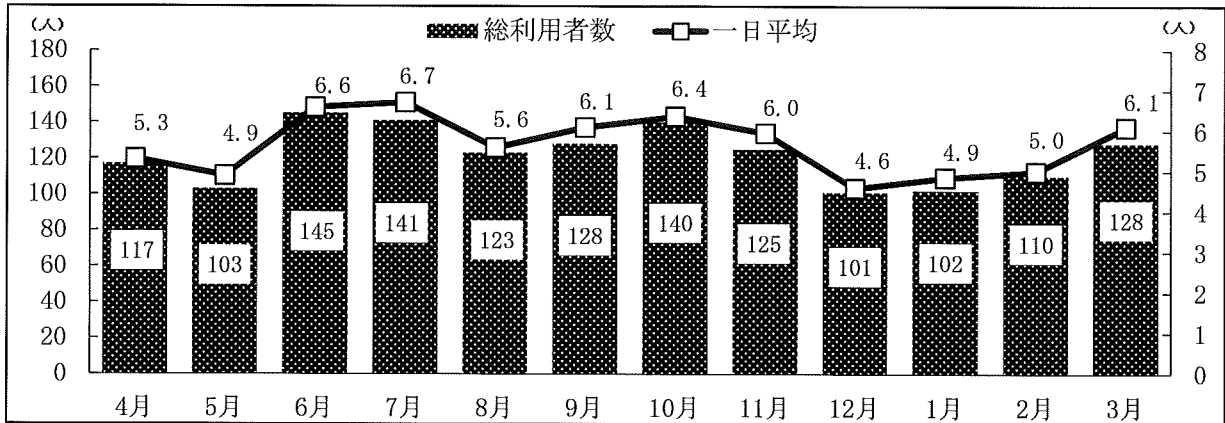
③通所リハビリテーション 利用状況

ア. 1日コース (6~7時間) 平均 25.5 人/日



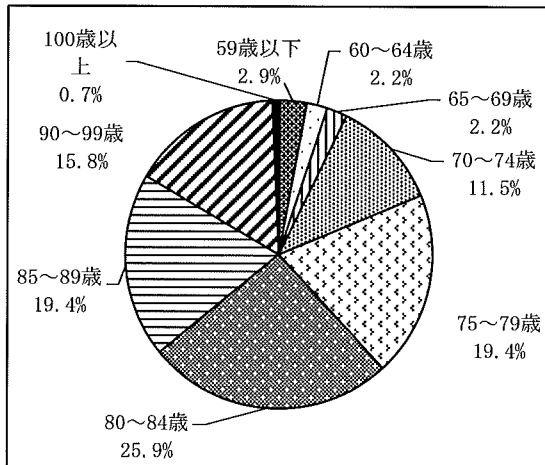
新型コロナウイルス感染症の流行に伴う長期欠席者が 4~6 月に目立ち、特に 5 月は利用総数 527 人に対し欠席総数 265 人と約 3 割が欠席となりました。その間、臨時的に訪問リハビリを実施し 17 回のサービス提供を行いました。また 11 月末にも感染症による影響で欠席者が 170 人となり、利用者の減少となっています。

イ. 短時間コース（1～2時間、2～3時間）平均 5.7 人/日



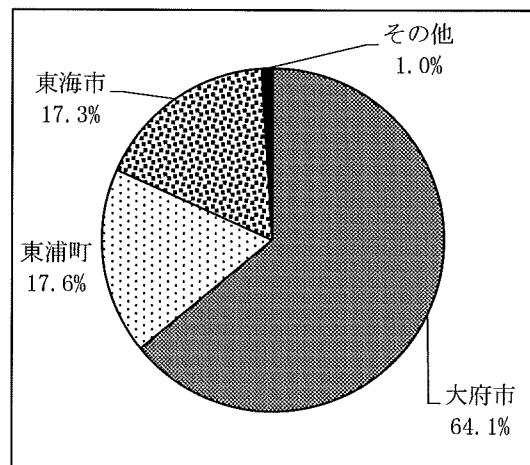
新型コロナウイルス感染症の流行に伴い4～6月と12月上旬の欠席が目立ちました。月間欠席者数の平均23人に対し5月は53人、12月は43人でした。

ウ. 年齢別利用割合



平均年齢は、81.2歳でした。

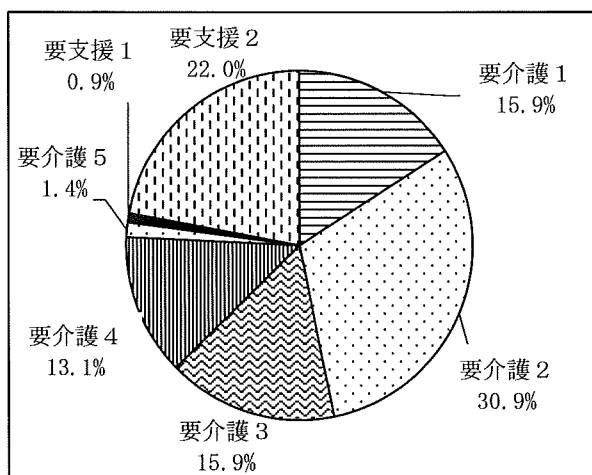
エ. 住所地別利用割合



大府市と東浦町で80%以上の利用となっています。

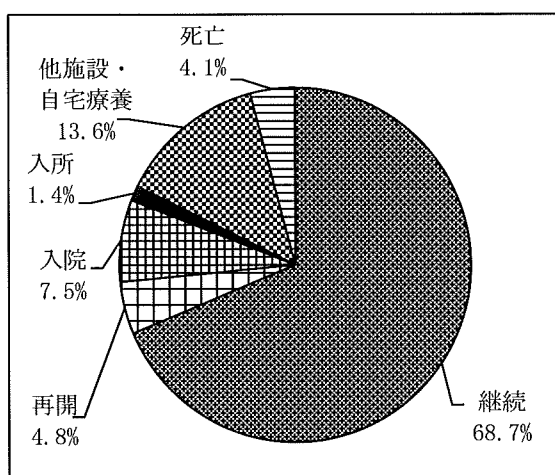
オ. 介護度別利用割合

平均介護度 2.08 (元年度 2.08)



平均介護度は 2.08 でした。要支援の割合が 22.9% で昨年の 21.5% より上昇しました。

カ. 利用継続率と利用中止理由

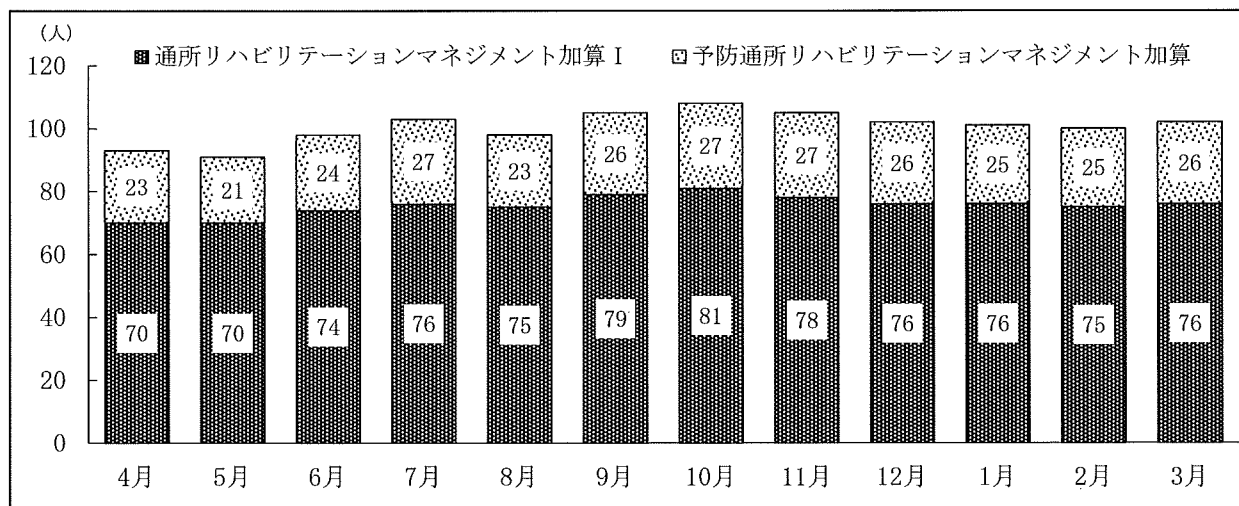


中止理由は自宅療養・他施設利用が最も多く、入院者は 0.1% 減、継続利用者は 1.8% 増えており、安定した利用につながっています。

キ. 通所 リハビリテーションマネジメント加算・実施人数 (実施率 100%)

対象者：介護平均 75.5 人/月 予防平均 25.0 人/月

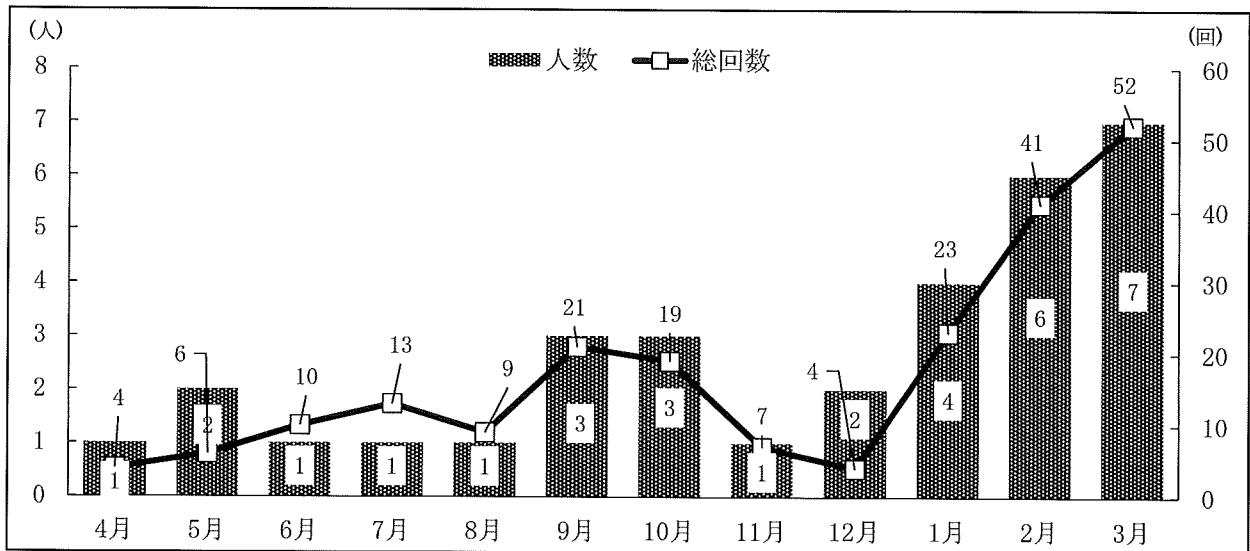
(元年度 介護平均 78.7 人/月 予防平均 25.0 人/月)



通所リハビリテーションマネジメント加算 I は元年度の月平均 78.7 人より 3.2 減少し 75.5 人でした。予防通所リハビリテーションマネジメント加算は、元年度の月平均 25 人と変化は見られませんでした。

ク. 通所 短期集中リハビリテーション加算・実施人数と回数（実施率 100%）

対象者：平均 17.4 人／月（元年度 平均 23.7 人／月）



短期集中リハビリテーションはご本人・家族の意向とケアマネジャーの支援計画に沿って実施しました。その為元年度月平均 23.7 回より 6.3 回減少し 17.4 回でした。

(2) 部門別報告

①相談部門

ア. 入所率 95%以上の確保

今年度の平均利用率は長期入所者が 95.1%、短期入所者が 68.58%で長期・短期入所を合わせると 94.62%でした。昨年度は 94.04%で計画に対して未達成ではありましたが前年度と比較して 0.58%上昇しました。今年度の入所者 70 人に対して医療機関から 54 人、その内の協力医療機関から 37 人の入所でした。特に国立長寿医療研究センターとは立地も近く、各病棟専属のソーシャルワーカーとの連携が図れました。結果として新規入所相談件数も多く当施設の空床情報の提供や再入所相談も積極的に行うことができ、空床期間の短縮につながりました。在宅からは 16 人の入所となっており、ケアマネジャーと在宅復帰に際しての退所前訪問をリハビリ職員と共に行うことで 11 人の方が在宅に退所され、在宅への安全な生活につなげることが出来ました。特別養護老人ホームへの退所は、コロナ感染流行の影響を受けて 7 人と昨年の 22 人より 15 人減少しており、結果として入所率の安定に寄与しました。

イ. 在宅復帰・在宅療養支援機能加算の取得継続に向けた取り組み

在宅復帰・在宅療養支援等の指標は 10 項目ありますがそのうちの入所前後訪問指導 23 人実施、退所前後訪問指導 13 人実施することで、それぞれ 10 ポイント計上し、老人保健施設の基本型の加算 40 ポイントのうち 20 ポイントの獲得に貢献できました。

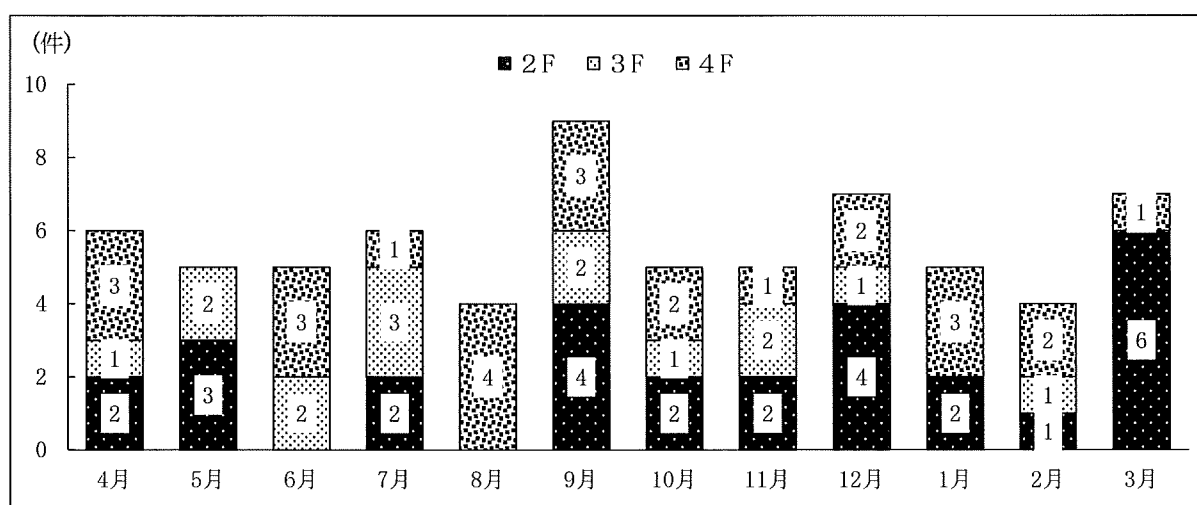
### ウ. 入所前後訪問指導・退所前後訪問指導

新型コロナウイルス感染症の影響もあり前年度と比較すると在宅復帰される人数は減少しましたが、在宅復帰を希望される方に対しては入所前後訪問指導・退所前後訪問指導を適切に行い施設内外の介護サービス事業所等との連携を図ることができました。

### エ. ボランティア活動の積極的な受け入れ

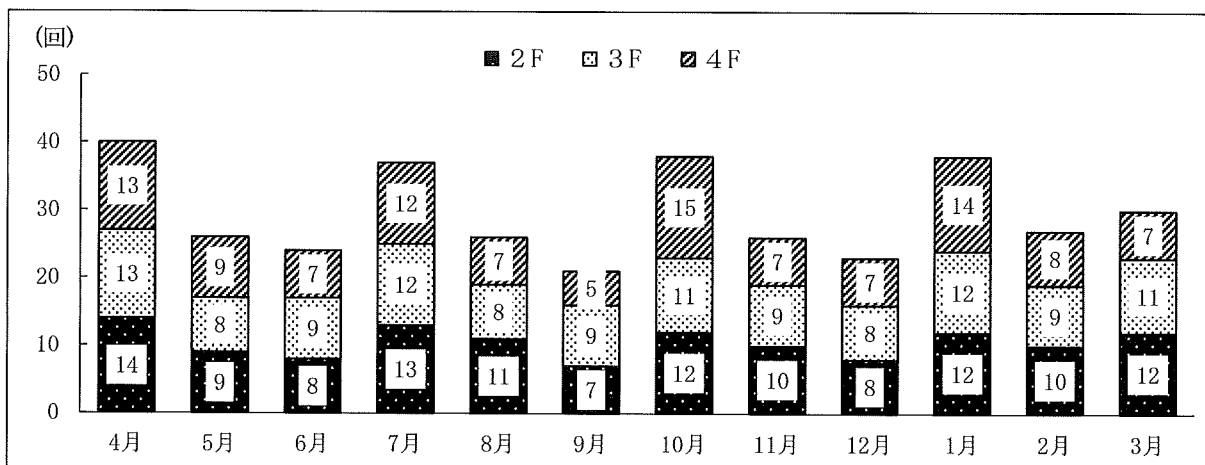
新型コロナウイルス感染流行を受け直接利用者と接触するボランティア受け入れは中止しましたが、1階ロビーの生け花のボランティアは継続して受け入れました。またデイケア職員がボランティアとして三味線を披露し、高評価をいただきました。

### オ. 2週間カンファレンス



入所時のサービス計画とリハビリテーション計画をより具体的で実効性のあるものにするため、新規入所者に対し各フロアで多職種による2週間カンファレンスを実施しています。元年度は2Fで28件、3Fで15件、4Fで25件、合計68件の2週間カンファレンスを行い、ケアプランの修正や追加を行うことができました。また、これとは別に、家族対応に課題のあるケースと転倒が連続して発生していたケースに対し6月と10月に1件ずつ看護介護部長出席のフロアカンファレンスを実施し、円滑な家族対応と転倒防止に効果を発揮できました。

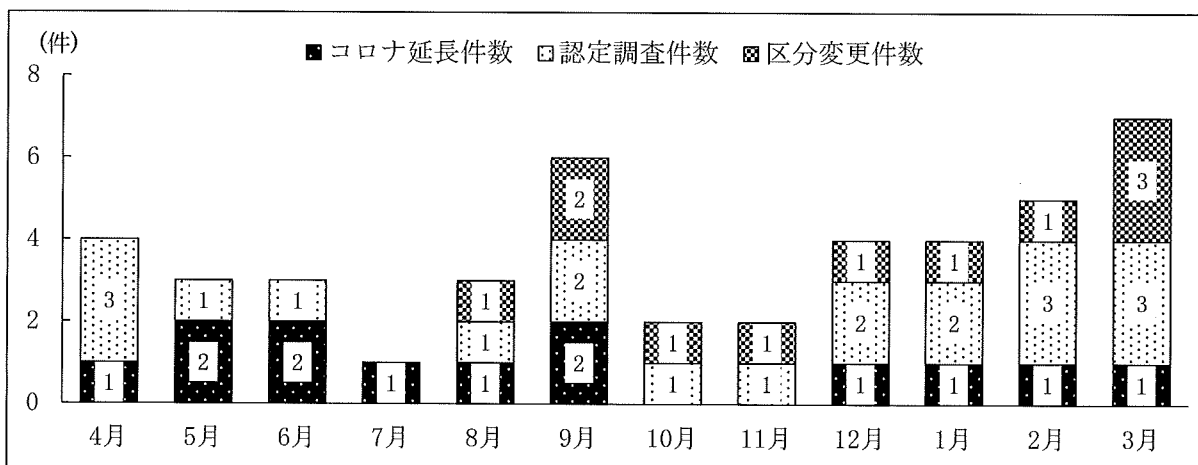
カ. 継続判定会議の開催



3か月に1回程度、利用者ごとに在宅生活の可否を検討することが運営基準で定められています。本人の状態悪化や高齢者世帯、独居などにより在宅復帰困難で入所継続判定が大部分を占める中、在宅可能と判定されたケースが4件、在宅を検討していたが困難と判定されたケースが6件、他施設・病院の方向性が明確に決定されたケースが13件、感染症のリスクや家族の事情で在宅が見送りになったケースが3件ありました。会議では在宅復帰の可否の他、医師から家族への説明の必要性について、転倒対策（保護帽購入の必要性等）について、リハビリや栄養面に関する議論も行いました。

在宅復帰促進、状態悪化や長期入所者に対する適切な退所支援を行うため継続判定記録の変更を行いました。入所から現在までの経過、ADL、家族の意向、他施設申し込み状況などの情報が一度に確認できる書式にしたことで現状が明確になり、特養申し込みのタイミングを具体的に検討できました。在宅復帰が決定した利用者については、リハビリ職員と連携し退所前訪問指導を行い電動ベッドや歩行器レンタルの必要性を提案し、在宅復帰に対する本人の不安軽減につなげました。

キ. 要介護認定件数 44件 (元年度 60件)

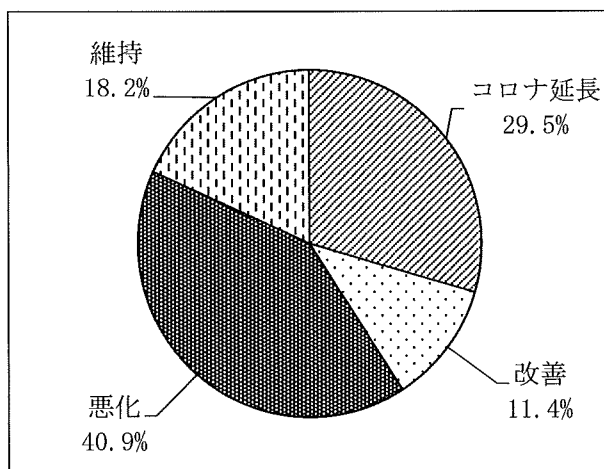


平成30年度から認定の有効期間が最長3年間になったことに伴い、昨年度の調査件数総数60件から44件（コロナ延長13件を含む）に大幅減少しました。

コロナ対策の一環で、家族の希望等により、コロナによる認定期間の延長の手続き

が取られ、認定の有効期間が1年間延長されています。

#### ク. 要介護度の変化



要介護認定調査の結果、状態が改善し介護度が前回よりも軽くなった利用者は全体の11%にとどまっています。

コロナ延長29.5%は改善または維持のケースがほとんどであるため、コロナ延長がなければどちらの割合も増加したと思われます。

### ②栄養部門

#### ア. 適切な食事提供

- ・ 入所者に対して栄養スクリーニングを実施し、低栄養状態のリスクがある入所者を把握し、栄養計画に反映させました。(新規入所者：70人、延べ337人)
- ・ 栄養ケア計画に基づいて、入所者ごとに対応した食事の提供や、経管栄養法による栄養補給を行うとともに、入所者にあわせた食事内容を多職種協働により取り組みを行いました。
- ・ 医師の指示に基づき、食事を経口摂取している方で、著しい摂食障害があり誤嚥が認められる入所者に対して、経口維持計画書を作成しました。(経口維持加算(I) 5人)
- ・ 低栄養リスクの高い入所者に対して、低栄養状態を改善する為の計画を作成し、加算を算定しました。(13人)

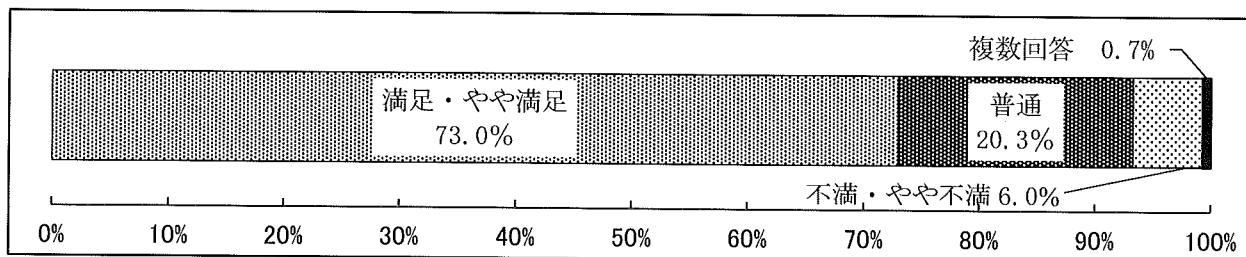
#### イ. 衛生管理

- ・ 個人衛生管理、施設設備管理、原材料の取扱管理、器具類管理、食品取扱管理、廃棄物管理等については、点検表を設け管理を行いました。主なものとして、使用水の残留塩素濃度(毎日、始業時・終業時)の測定、毎食ごとの加熱食品の中心温度の測定等39項目について行いました。
- ・ 食中毒予防として、検収場での品質・鮮度・品温・異物混入等の点検、調理器具の洗浄・消毒・乾燥等、厨房スタッフへの教育を徹底しました。(5、12月実施)

#### ウ. 食事委員会の開催及び嗜好調査の実施

- ・ 委員会は職員及び給食委託業者で組織し、食事サービス向上に向けて、月1回開催しました。
- ・ 月1回の行事食、週1回の選択食を実施しました。
- ・ 嗜好調査を3年2月に実施しました。

対象者 135 名、回答率 97.7% (本人回答 54.6%、聞き取り 45.4%)



## エ. 提供食数

食種ごとの食数表 (令和3年3月・昼食の平均)

主 食							副 食					
米飯	軟飯	全粥	粥ミキサー	粥ソフト	パン	合計	常食	一口大	刻み	ミキサー	ソフト	合計
54	29	31	4	4	3	125	50	33	34	4	4	125

## ③看護・介護部門

### ア. 利用者、家族の満足度の向上

- ・ 新型コロナウイルス感染症の対策による面会制限がある中、オンライン面会や対面式の面会 (11月～12月) ベランダ越しでの対応を行い、コミュニケーションのサポートを行いました。
- ・ オンライン面会に関する意見・要望を整理し、回答書を一階ロビーにて公開、ホームページ上でも掲載することで利用者家族からの意見にフィードバックを行いました。
- ・ 職員の自己点検シート・個人アクションプランの振り返りを実施、この結果をもとに改善を行いサービス向上に取り組んでいます。

### イ. 事故・感染に関するリスクマネジメントの実施

- ・ 集合研修が行えない中、各部署での感染対策学習会を行いました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策のシミュレーションを実施する事で、感染症発生時、濃厚接触疑いなど対応を明確に出来るようにしました。
- ・ COCOAアプリを活用し、職員、利用者の毎日の検温、利用者の生活空間、職員の共有空間の消毒の徹底、および外出・外食を控えることにより、施設内で新型コロナウイルス感染者は出ませんでした。また、感染予防の徹底により、インフルエンザ・ノロウイルス感染での体調不良者も出ませんでした。
- ・ 3月に全職員対象にPCR検査実施し、全員陰性でした。
- ・ 2年度事故件数 97件 (前年度125件) 骨折者5人 (前年度5人)
- ・ 資料配布とアンケートを組み合わせる方式で事故防止の研修を行い、ケアレスミスによる転倒等の事故予防に努めています。



ウ. ケアの質の担保（認知症ケアを含む）

- ・ 施設内で以下のタイトルについて小規模での研修を実施しました。（権利擁護、感染症対策、事故防止、認知症対応）
- ・ 2年度認知症介護実践研修への参加はありませんでした。
- ・ 2階フロアでは、毎月の会議において、認知症利用者のケアの課題やかかわり方など検討し、全体で共有しながらケアの向上に努めました。
- ・ 各部署で季節に合わせた行事や毎日のレクリエーションを実施しました。
- ・ 毎年取り組んでいる施設内研究報告会をポスター形式で実施し、それぞれに賞を出しました。（7事例）

エ. 利用者の安心と働きやすい職場作りの為の業務改善

- ・ 薬剤供給システムを見直し、看護師が薬剤セットにかかわる時間を最小限にすることができました。
- ・ フロアの業務マニュアルを月間・週間に分ける事で見やすく更新しました。
- ・ 介護ロボットを導入し利用者、職員の介護負担の軽減を図っています。
- ・ 他産業からの転職者、有資格者等にこだわらない幅広い採用の仕組みづくりを始めました。

④リハビリ部門

ア. 長期入所者のリハビリテーション

- ・ 4月から2階の集団リハビリ対象者を見直し、週2回の個別リハビリ実施対象者を増やしました。8月からはコロナ禍に対する感染拡大予防として、リハビリ職員の業務を見直し、フロア間の移動を最小限とする職員配置でリハビリを提供しました。その為、週2回の個別リハビリの拡充が困難となり、集団リハビリの導入で対応をしました。また、通所利用者との接触を避けるために、機能訓練室での個別リハビリを中止し、フロアでのリハビリが充実して行えるよう取り組みました。
- ・ 在宅復帰の可能性の有無に関わらず、対象期間で体調に問題のない利用者すべてに、短期集中リハビリを提供しました。
- ・ 在宅復帰予定利用者には最大数実施できるよう進めました。期間中に在宅復帰した3人についての最大回数達成率は92.3%でした。
- ・ 2年度に短期集中リハビリを実施し、終了している41人について、HDS-R（認知症の評価）では改善17人、維持12人、低下12人（中央値の比較は実施前20点、実施後22点）でした。身体能力については、改善20人、維持9人、低下11人で、特にTUG（開眼片脚起立時間）が前後で実施出来た16人については、改善10人、低下6人（中央値の比較は実施前17.6秒、実施後16.22秒）でした。対象者の約7割に心身機能の維持向上が図れました。
- ・ 認知症の短期集中リハビリの実施人数は実施条件を満たす対象者が増加していない為、例年と変わりませんでした。最大数達成率は93.5%で体調が安定している利用者についてはコロナ禍の職員体制でも、概ね実施することが出来ました。

- ・ 2年度に認知症短期集中リハビリを実施し、終了している7人について、MMSE（認知機能の評価）では改善5人、低下2人（中央値の比較は実施前21点、実施後21.5点）でした。
- ・ 居宅の介護支援専門員のケアプラン上で設定されている予定回数を概ね実施出来ました。体調に問題ない利用者については100%実施しました。

#### イ. 通所者のリハビリテーション

- ・ マネジメント加算については要支援・要介護ともすべての利用者に算定し、居宅の介護支援専門員のケアプラン上で設定された、短期集中リハビリも100%実施しました。
- ・ 2年度に、新規で通所リハビリを利用された31人中、年度中に3ヶ月以上の継続利用が出来た21人のリハビリ評価結果は、HDS-R改善9人、維持6人、低下6人（中央値の比較は開始時24点、3ヶ月後25点）、TUG改善11人、維持3人、低下7人（中央値の比較では開始時12.65秒、3ヶ月後で11.08秒）で概ね7割の利用者で心身機能の維持向上が図れました。
- ・ 平均介護度も前年度と同じ2.08を維持し、長期利用者の心身機能の維持を図れています。

#### ウ. 訪問リハビリテーション

- ・ コロナ禍の影響もあり2年度は実施しませんでした。

### ⑤通所リハビリ（デイケア）部門

#### ア. 安定した利用者数の確保

- ・ 利用体験は31人でした。その内、正式な利用に繋がった方は27人です。87%が利用に繋がっており満足度は高いと考えます。
- ・ 市内の居宅介護支援事業所とは、大府市が主体となり管理しているインターネット上の情報共有サイト「おぶちゃん連絡帳」の活用も徐々に広がり、細かい情報やデータの共有が可能となっています。
- ・ 利用者数は1日コースの目標28人に対して25.5人でした。
- ・ 短時間コースの目標10人に対して5.7人でした。

#### イ. 在宅生活が継続できるよう自立支援の展開

- ・ 計画書の作成、見直しを適切に行い、目標の把握と対応を続けるよう心掛けました。
- ・ 連絡帳を基本とし細かく情報共有を家族と行いました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症流行の為、リハビリスタッフの訪問は極力控えましたが、送迎時のお声がけ等を意識しました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症が流行しましたが、利用者アンケートではレクリエーションと季節行事を合わせて67%の方が希望されており、感染対策に留意し季節レクリエーションを毎月開催しました。

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染対策として利用者、家族にアンケートを行った結果、安心が82%、やや安心が12%、やや不安が2%、不安が1%、何も感じないが3%となりました。

ウ. おもてなしの心でふれあいケアの提供

- ・ 利用者の情報を各スタッフが把握し、好む話題やレクリエーションの提供、家族関係や身体の不安への傾聴を心がけています。

エ. 新型コロナウイルス感染症流行に伴う臨時対応

- ・ 通所リハビリ利用者に対する臨時対応としての1単位の訪問リハビリの提供を希望者に合わせて17回提供しました。その際感染対策としてガウンテクニックを、訪問するスタッフを中心に訓練をしました。

オ. 新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 机を購入し対面に座位しないよう徹底しました。
- ・ 利用者へマスクの装着について、繰り返し説明し、利用者の感染防止の意識も高めました。
- ・ 車内の感染を防ぐため、車、運転者の数を増やし、乗車時の人数が密にならないよう配慮しました。非接触型の体温計を増やし、乗車前の検温や消毒の徹底を行いました。
- ・ 利用者、家族には連日の検温に協力をしていただき、発熱などの兆候を早期に発見できるよう努めました。
- ・ 利用者間の感染を防ぐため、共有物品を減らし、共有せざるを得ないものは都度消毒を行いました。セルフサービスとなっていた喫茶コーナーをスタッフへの注文方式に変更しました。
- ・ フロア入所者と、デイケア利用者の接触を避けるため、入浴時間を厳密に区別し対応しました。
- ・ 利用者、家族へ接触確認アプリ『COCOA』の説明やお勧めを折に触れて行いました。

(3) 委員会実施状況

委員会名	実施内容	結果
事故・感染	① ルミナス版新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成しました。部署ごとの学習会の実施、濃厚接触者リスト作成を含んだ、コロナ感染机上シミュレーションを実施しました。自己点検チェックリストの活用し感染予防物品を管理しました。	① 感染対策マニュアルは、部署別机上シミュレーションの計画作成の段階で、それぞれの委員が自分のこととして感染予防について考えられるようになりました。部署別対応についてもマニュアルに追加する予定です。

	<p>② 事故防止委員会の分離強化。転倒転落ヒヤリハット PC 入力、集計システムの立ち上げ、転倒防止物品を管理しました。</p> <p>③ 理学療法士 1 名、介護福祉士 1 名が転倒予防指導士の資格を取得しました。</p>	<p>② 転倒防止物品（滑り止めマット、保護帽、ヒッププロテクター）を必要な方の個人持ちとするよう、検討を続けていきます。</p> <p>③ 転倒予防学会の WEB 講習会で学んだ事を事故防止委員会で報告し情報共有と転倒防止に対する視点について共通認識を持ちました。転倒要因について分析し防止に向けた取り組みを実施しました。</p> <p>転倒防止物品を転倒予防指導士の観点から分析し導入に向けて取り組みました。</p> <p>2 年度事故全体では 125 件(転倒転落 108 件)、骨折者 5 名のところ 97 件(転倒転落 85 件)、骨折者 5 名でした。</p>
研究・教育	<p>① 権利擁護、感染対策、事故防止等の研修を部署ごとに実施しました。</p> <p>② 施設内研究報告会をポスター掲示式で 3 月に実施しました。</p>	<p>① 研修に参加出来なかった職員にも資料を配布し、全職員が研修内容に目を通す事で、知識の共有に努めました。</p> <p>② 研究報告をポスター掲示式で実施する事で、人の密集を避けることができました。発表を聞くだけよりも何度も見る機会が出来ました。</p>
サービス向上	<p>① 入浴物品・おむつの発注、管理及び、浴室用転倒予防マットの検討を行いました。</p> <p>② コロナ感染予防内容を含めた満足度調査より、オンライン面会に関する意見要望が多く寄せられたため、回答書を公開しました。一階ロビーに掲示するとともに、ホームページにアップしました。</p>	<p>① 事故防止委員会とも協働して、転倒防止物品（滑り止めマット、保護帽、ヒッププロテクター）を必要な方の個人持ちとするよう、さらに検討を続けていきます。</p> <p>② これまでは調査を行い、委員会内で検討するのみでしたが、利用者家族からの意見をフィードバックしていく仕組みができました。</p>
行 事	<p>① コロナ禍により、施設全体での行事が実施出来ませんでした。その分フロアごとに行事を行ってきました。家族との面会の機会が失</p>	<p>① 行事委員会を 3 回実施しました。密にならないように感染対策を徹底しながら、フロア毎に利用者の心身状態に応じた小行事を実施しました。</p>

	われたことからくるストレスの軽減に努力し、フロアごとのレクリエーションの企画を行いました。	
新聞	① 年4回のルミナス通信を発行しました。内容は研究発表会の紹介、施設の紹介、コロナ禍の過ごし方などをまとめて、家族及び近隣機関に発信しました。	① 市役所、保健センター、公民館にルミナス通信を置かせていただくだけでなく、支援相談員が外部施設へ出向く際にも持参し、施設の宣伝材料として利用してもらいました。
食事	① 厨房職員同伴でのフロア巡回、嗜好調査を行いました。 ② 月1回の行事食、週1回の選択食を実施しました。 ③ 衛生管理点検を行いました。	① 食事形態の調理基準の明確化と嗜好調査結果の改善が見られました。 ② 行事食、選択食を提供しました。

#### (4) ルミナス大府夏まつり

毎年、地域の方々のご協力により開催しているルミナス大府夏祭りは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮して中止としました。

全体行事としては中止をしましたが、各階で小規模な行事を実施しました。

フロア	開催月日	実施内容
2階	10/21	運動会
3階	中止	
4階	10/25	秋祭り（ゲーム・やきそば・おかし）
デイケア	8/5	やきとり・みたらし・ゲーム

#### (5) 地域貢献事業

①「カフェ くちなし」として開催しました。（元年度 380人・11回開催）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加者数	コロナウイルス感染予防のため中止						23	20	10	17	14	21	105

（開催日 第2日曜日、午前10時～11時）

参加者については、認知症の当事者及び介護者が延べ35人、一般住民が16人、ボランティア・スタッフ等54人でした。

4月～9月は、感染症予防対策のため、中止としました。10月以降は、オンライン会議ツール「ZOOM」を使用し、オンラインで再開しました。自宅でZOOMの使用が難しい参加者は、大府センターに来所いただき、スタッフが支援を行いました。

## ②かがやき塾（介護予防教室）

地域支援事業の一環として介護予防教室「かがやき塾」を毎年5回にわたり吉田公民館で実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の恐れがあるため、中止しました。

## （6）防災防火対策の取り組み

### ①防災訓練

年2回（全体訓練10月21日、地震想定訓練3月24日）実施しました。

### ②全体訓練

新型コロナウイルスに対する感染対策として支援グループ、法人内の本部、大府センターとサンサン大府からの応援は行いませんでした。

### ③地震想定訓練

2年度に登録した「きずなネット」職員一斉メールを利用し、地震発生と安否確認、職員参集をメールにて連絡できる体制を確認しました。

### ④支援グループ総会

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、中止としました。

## （7）地域連携事業

### ①地域ボランティア

毎年1,000名を超えるボランティアの方々にご支援ご協力をいただいておりますが新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ボランティアの受け入れを中止させていただきました。実績としては1階のお花を活かしてくださるボランティアの方が月2回程度活動されました。

### ②福祉健康フェア

大府市が主催する「大府市福祉・健康フェア」は市内の福祉事業所のPR場として毎年参加していましたが、今年は新型コロナウイルス感染症防止の観点から中止となりました。

### ③ウェルネスバレー推進協議会

大府市・東浦町が主催するウェルネスバレー推進協議会、同運営委員会、同産業振興ワーキンググループ、にぎわいワーキンググループに参加しました。

## （8）実習生の受け入れ

2年度の受け入れは新型コロナウイルス感染症拡大を考慮して中止としました。

(9) PR活動

透明性が高く、地域に開かれた施設であるために当施設のサービス内容や日々の取り組みを地域の方々に広く情報発信する手段として年4回ルミナス通信の発行、ホームページの更新に努めました。また感染対策の取り組みを中日新聞に5月と10月に掲載、知多メディアスに1回報道されました。

①ルミナス通信

発行回数：年4回

配布場所：市役所、市保健センター、市内の公民館、市内医療機関等

発行部数：計2000部

発行号数	発行日	内容
第77号	令和2年4月1日	施設内研究発表会 新人職員の紹介 1月餅つき会の報告 施設紹介（浴室）
第78号	令和2年7月1日	施設長の挨拶 面会制限期間のフロアでの過ごし方 （2階、3階、4階、グループホーム） デイケアマスク自給自足
第79号	令和2年10月1日	オンライン面会 七夕会（2階、3階、4階、デイケア） ルミナス野菜クイズ
第80号	令和3年1月1日	新年のあいさつ 秋冬の取り組み（グループホーム） コロナ禍の過ごし方（リハビリ編） 施設紹介（個室）

②ホームページ

日常的に施設の取り組み状況をホームページで発信しました。ホームページの年間閲覧回数は6,206件でした。特に新型コロナウイルス感染症対策として新聞掲載、テレビ報道された5月は669件、10月は712件と閲覧回数は月平均の517件よりも多い回数でした。また求人にも役立っておりホームページの求人サイトから多く応募いただきました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
閲覧回数	401	669	462	447	425	597	712	503	552	507	447	484

## 6. 訪問看護ステーションルミナス大府

### (1) 訪問状況

- ①利用者総数 81人 (元年度 79人)
- 新規利用者数 37人 (元年度 31人)
- 終了利用者数 26人 (元年度 35人)

### ②月別訪問状況

単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
訪問件数	339	294	342	328	322	327	325	297	316	330	331	346	3,897
利用者数	49	49	49	49	49	51	49	50	50	55	58	54	612
新規利用者数	6	1	2	2	1	3	3	3	2	5	6	3	37
終了利用者数	2	1	1	1	3	2	3	1	1	1	7	3	26

- ア. 月平均利用者数 51.0人 (元年度 50.1人)
- イ. 月平均訪問件数 324.8件 (元年度 288.5件)
- ウ. 介護保険訪問件数 要介護 2,955件 (75.8%)  
    予防介護 201件 (5.2%)
- エ. 医療保険訪問件数 41件 (19.0%)

同行訪問、その他の訪問が136件あり、延べ訪問件数は4,033件でした。

常勤職員3人と非常勤職員2人の計5人常勤換算4.0人で稼働し、事業計画の目標値は達成できました。

### ③24時間連絡体制の状況 (年間総数)

- ア. 緊急時対応訪問 158件 (元年度 159件)
- イ. 利用者との電話相談
- ウ. 営業時間外 112件 (元年度 156件)
- エ. 営業時間内 432件 (元年度 457件)
- オ. 営業時間外その他機関との連絡調整 68件 (元年度 71件)
- カ. 介護保険緊急時加算契約者 50人 84.7% (元年度 51人 91.1%)

### ④施設への訪問

サービス付き高齢者向け住宅へ2人、短期での訪問を行いました。

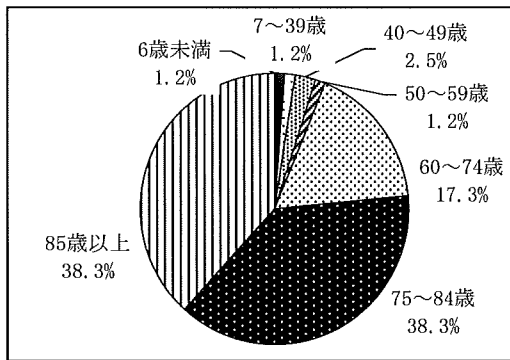
### ⑤看護体制強化加算について

11月より、介護保険対象者(予防を除く)に看護体制強化加算(Ⅱ)(300単位)を算定することができました。



(2) 利用者状況

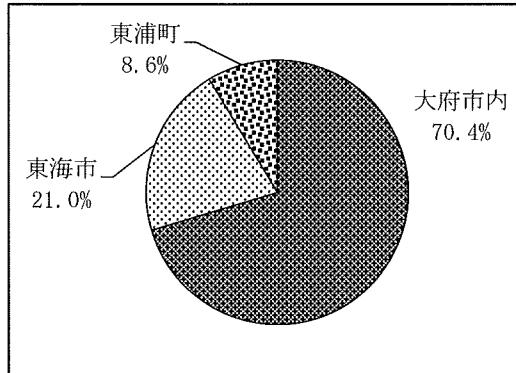
①年齢別利用割合



平均年齢 79.52±14.84 歳  
 (元年度平均 79.61±17.72 歳)  
 介護保険利用者 84.27±8.41 歳  
 医療保険利用者 66.77±20.25 歳  
 男女比 男性 50.62%  
 女性 49.38%  
 75 歳以上の後期高齢者 77.8%  
 (元年度後期高齢者 78.5%)

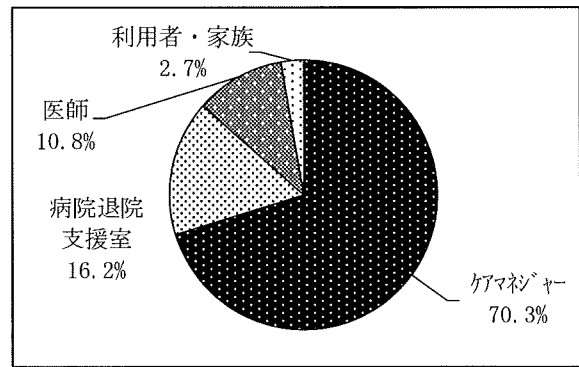
5 歳児 1 人、20 歳代 1 人に対応しました。介護保険利用者の平均年齢は、ほぼ変化はありません。医療保険利用者は、小児対応で大きく変化するため、参考程度となります。

②住所別利用割合



知多市の訪問がなくなりました。東浦町も減少傾向にあります。

③新規紹介経路別割合 (総数 37 人)



ケアマネジャーからの紹介が約 7 割を占めています。

④認知症高齢者と高齢者との日常生活自立度による分類 (対象 80 人小児除く)

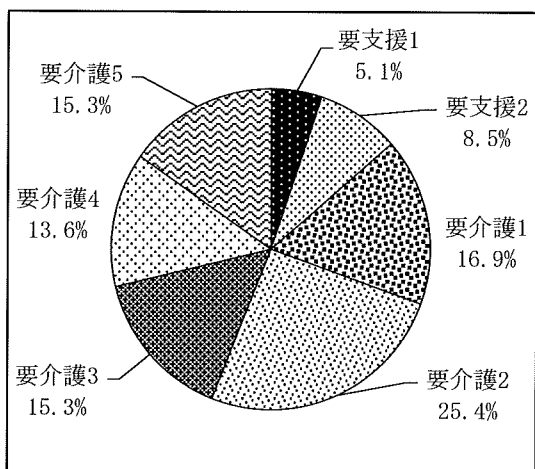
自立度 軽 ↓ 重	認知症 軽 → 重					計
	なし	I	II	III	IV	
J	14	8	0	0	0	22
A	10	7	4	3	0	24
B	11	3	5	5	1	25
C	3	1	0	2	3	9
計	38	19	9	10	4	80

日常生活自立度「寝たきり B・C」 42.5% (元年度 45.5%)  
 認知症自立度「III・IV 中等～重度」 17.5% (元年度 27.3%)  
 「認知症なし」 47.5% (元年度 37.7%)  
 日常生活自立度「J 自立」「認知症なし」 17.5% (元年度 18.2%)  
 日常生活自立度「J 自立」認知症「なし」が 14 人 (17.5%) と最も多く、医療処

置をメインとしています。認知症「なし」が38人で約半数です。

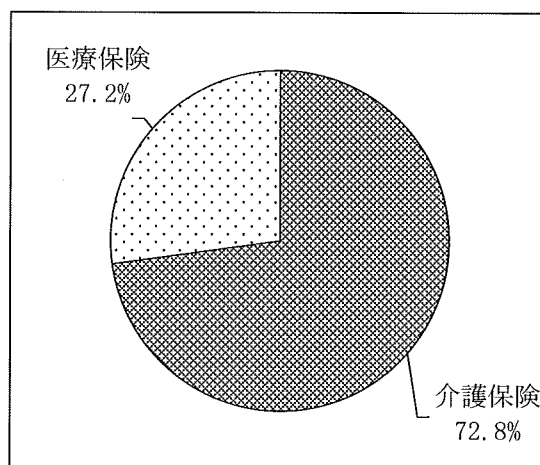
⑤介護度別利用割合

平均介護度 2.4 (元年度 2.65)



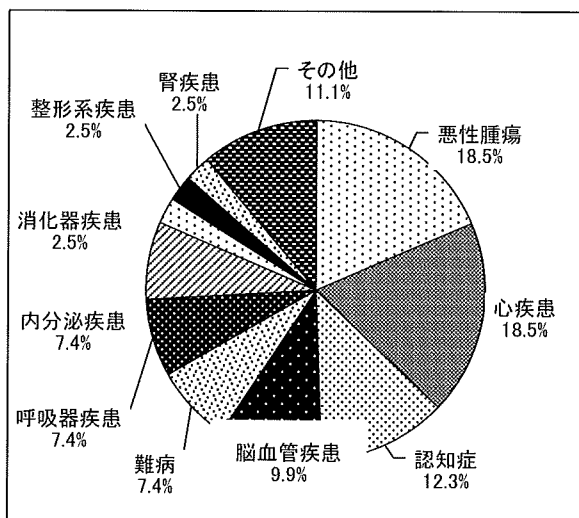
平均要介護度は2.4でした。年々軽度化の傾向にあります。要介護度は、要介護1・2の利用者が多いことも近年の傾向です。

⑥適用保険別利用割合



介護保険利用者が約7割を占めています。

⑦疾患別利用割合



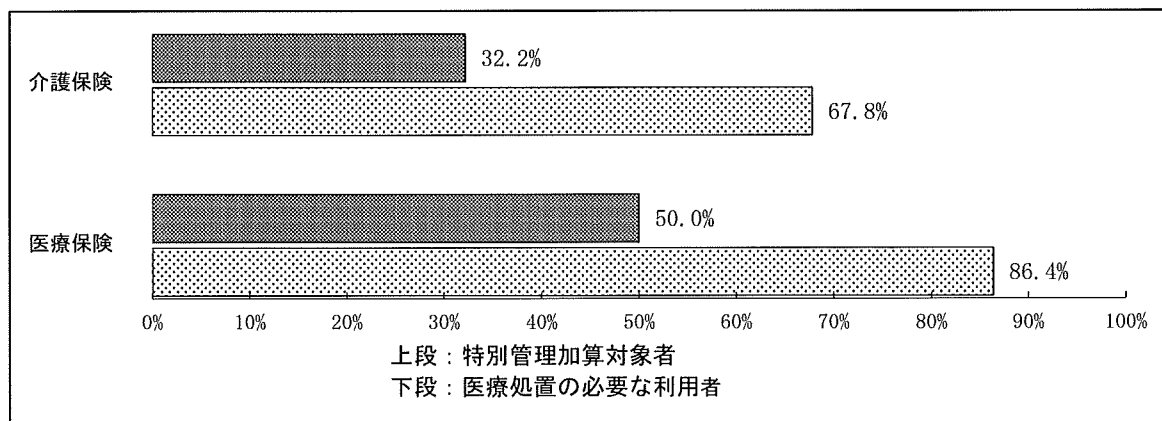
悪性腫瘍の利用者が多い傾向は例年と同様です。認知症は女性に多く、呼吸器疾患は男性に多くみられます

⑧医療処置内容

単位：人

	医療保険	介護保険	合計
点滴・注射の実施・管理（インシュリン含む）	3	12	15
ターミナルケア	9	6	15
浣腸・摘便	6	9	15
褥瘡	4	9	13
服薬管理等の実施	1	10	11
在宅酸素療法の指導・援助	3	7	10
褥創以外の創傷部の処置	3	5	8
採血等の検体採取（BS 含む）	1	6	7
エンゼルケア	1	6	7
麻薬・薬剤を用いた疼痛管理	6	0	6
膀胱留置カテーテルの交換・管理	1	4	5
吸引	3	1	4
自己導尿の指導、管理	2	2	4
I V H	2	1	3
人工肛門・人工膀胱の管理	0	3	3
ドレインチューブの管理	0	3	3
がん化学療法の管理	1	1	2
胃瘻による経管栄養法の実施、管理	1	1	2
気管内吸引	1	0	1
気管カニューレの交換、管理	1	0	1
胃管管理	0	1	1
人工呼吸器管理（BIPPV）	0	1	1
透析管理（血液）	1	0	1
合 計	50	88	138

⑨適用保険別医療処置の必要な利用者・特別管理加算対象者の割合



介護保険対象者も特別管理加算の対象以外の医療処置を多く必要とされています。処置の内容に大きく変化はありませんでした。

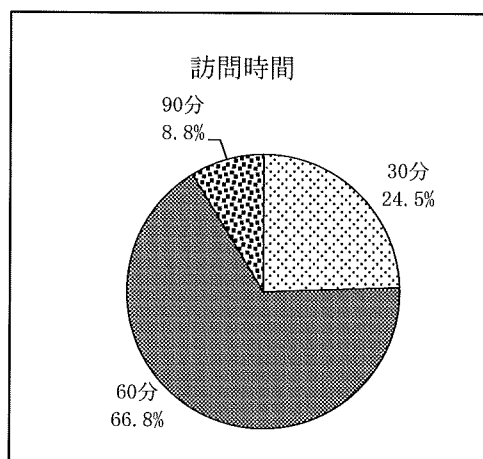
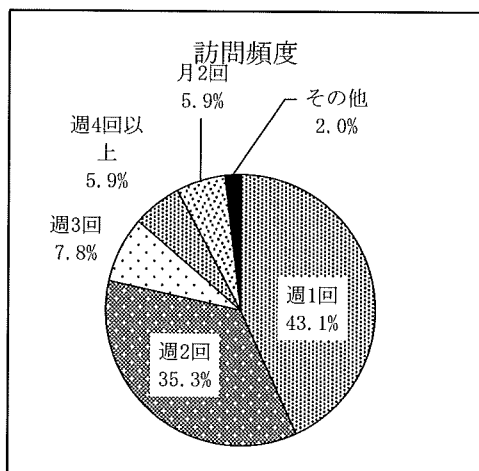
ターミナルケア加算対象者は9人でした。

⑩介護保険及び医療保険利用者別の訪問頻度と訪問時間の割合

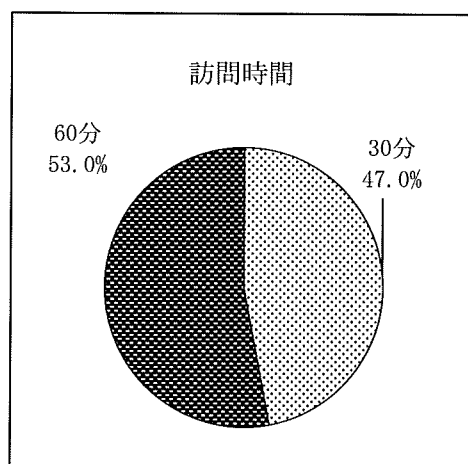
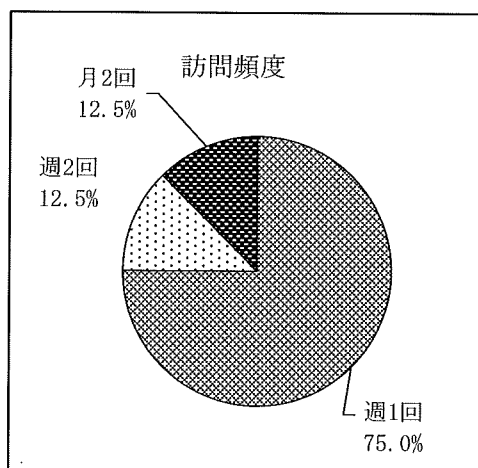
- ア. 利用者一人あたりの月平均利用回数 6.37回 (元年度 5.76回)
- イ. 介護保険 (要介護) 利用者 6.64回 (元年度 5.74回)
- ウ. 介護保険 (要支援) 利用者 3.72回 (元年度 4.00回)
- エ. 医療保険利用者 6.56回 (元年度 6.90回)

要介護では、創傷処置、点滴管理、ターミナルケアなどで週4回以上対応の利用者が増加しました。要支援では30分未満の短時間訪問が大きく増加し、約半数です。

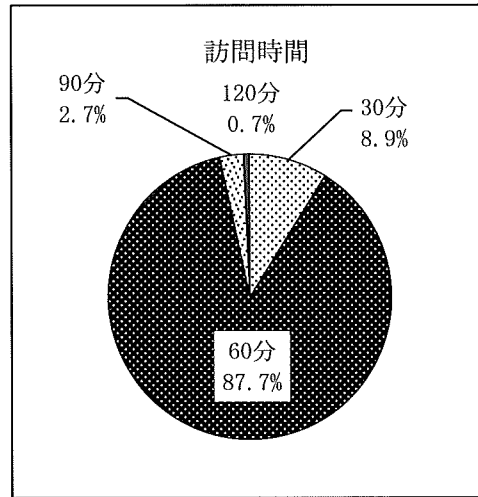
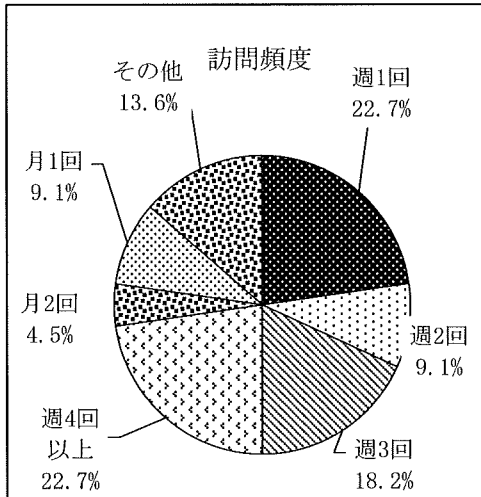
要介護 51人



要支援 8人

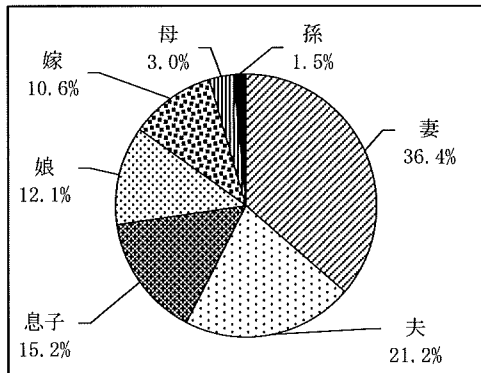


医療保険 22人

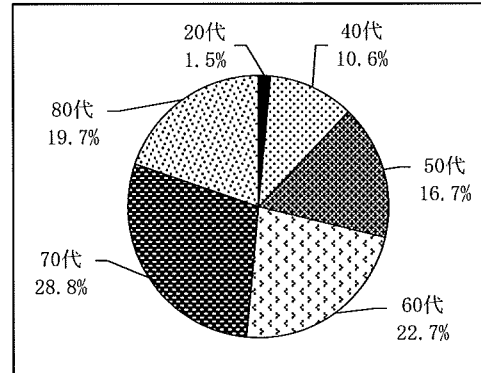


⑪介護者の続柄、年齢の割合

対象 66人



対象 66人



独居 13人 日中のみ独居 7人 サ高住入居 2人

介護者の続柄は、配偶者が57.6%、子どもが27.3%、嫁が10.6%でした。  
年齢は、老々介護（70歳以上）が約半数を占めます。夫婦への訪問は1ケースありました。

⑫月別入退院数（元年度入院 61人、退院 64人）

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(延)
入院	0	2	3	2	2	4	3	3	1	6	4	3	33
退院	5	3	2	1	2	2	1	3	2	4	6	7	38

今年度は入退院数が大きく減少しています。訪問開始後安定した利用者も多くありましたが、コロナ禍の影響もあるかと思われます。

⑬利用終了者の転帰（対象 26 人）

死亡		軽快	入所	その他	合計
17	内入院死亡 9	3	1	5	26
	内在宅死亡 8				

ターミナルケア加算算定数 9件

死亡のうち、在宅での死亡率は 47.1%でした。

訪問看護や在宅医の利用により、在宅での看取りが可能となっています。

(3) 他機関との連携

情報の共有化、他機関との業務協働のため、ケアマネジャー、医師、サービス事業所、病院等との連携を頻回に行ない、月平均 158 件となりました。サービス担当者会議、退院前カンファレンス等年間 44 回の会議に参加しました。コロナ禍のため、書面による照会や ICT の利用が多くあり、会議の数は減少しました。

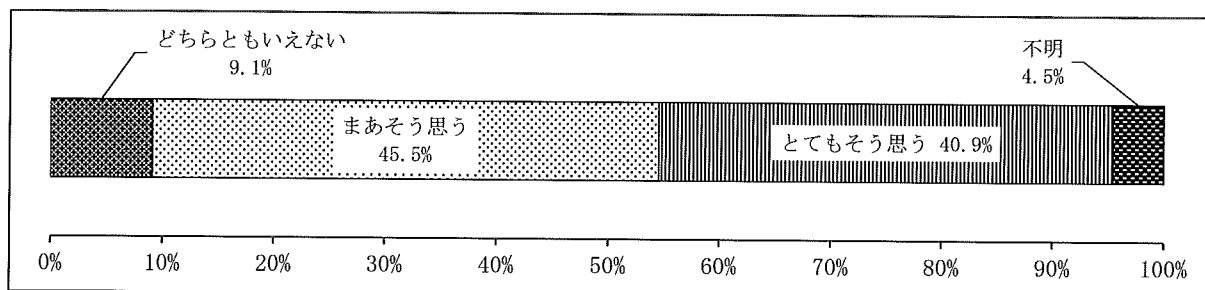
今年度の連携医（訪問看護指示書の交付医師等）は、診療所 20 機関（利用者 47 人）、病院 7 機関（利用者 41 人）で、57 人の医師より指示をいただきました。ケアマネジャーは、22 事業所 38 人と連携しました。

大府市の「おぶちゃん」、東海市の「へいしゅうくん」、東浦町の「おだいちゃん」のネットワークツールを積極的に活用しました。ICT の利用者は、38 人（46.9%）です。

(4) 利用者及び家族へのアンケート

2 年度は 4～10 月に利用実績のある 62 人を対象に、利用者宅へ郵送し、無記名でアンケートを実施しました。回収率 71.0%

総合評価として、85%の利用者よりサービスの満足度は高いという評価をいただきました。



(5) 職員研修状況

愛知県看護協会研修	名古屋市開催	2回	2人
かとう内科クリニック勉強会	刈谷市開催	1回	2人
愛知県訪問看護ステーション協議会	名古屋市開催	1回	1人
公立西知多病院緩和ケア研修	東海市開催	1回	1人
あいち小児保健医療総合センター	大府市開催	1回	1人
看護協会ブラッシュアップ研修 5日間	名古屋市開催	1回	1人

(リモート研修 3 回含む)

(6) 大府市在宅医療・介護連携推進事業（委員任期 令和4年3月31日）

コロナにより会議は中止されましたが、市役所担当者との対策には参加しました。

## 7. 認知症高齢者グループホーム・ルミナス大府

### (1) 利用者状況

#### ①各月末入居者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	3	3	3	3	3	2	3	3	2	2	2	2
女性	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7
合計	9	9	9	9	9	8	9	9	9	9	9	9

死亡退所（9月 1人）、入院退所（12月 1人）

新規入所（10月 1人、12月 1人）

年間を通して9人で安定していました。

#### ②入居者年齢 平均年齢 86.0歳（元年度 86.0歳）

年齢	71～75	76～80	81～85	86～90	91～95
人数	0	1	3	2	3

年度末現在利用者

#### ③介護度別 平均介護度 3.33（元年度 2.89）

要介護度	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
人数	0	2	2	0	1	4

年度末現在利用者

### (2) 入所者を尊重した個別ケア

- ① 友達に会いたい、家に帰りたい、買い物へ行きたい等訴えがありましたが、コロナ禍で対応できないことが多かったです。出来るだけ気持ちに添えるよう検討し対応しました。
- ② 帰宅願望の訴えがある方に付き添い外を歩き、家族へ電話をかけ声を聞いて頂いています。又は面会に来て頂くようお願いしました。
- ③ 家で暮らしたいと訴え時は家族を交えての話し合いを繰り返し行いました。
- ④ 花が見に行きたい、外へ行きたいと言われ一緒に散歩へ出掛けました。

### (3) 家族との意見交換会

3ヶ月毎の意見交換会はコロナのため開催できませんでした。家族同士の話はできていませんが、面会時に職員と家族とコミュニケーションをとるようにしました。又は電話で話をするようにしました。

### (4) 家族同伴日帰りバス旅行はコロナウイルス感染防止のため中止しました。

### (5) コロナウイルス感染防止のため、積極的な地域の方との交流はできませんでしたが、地域のボランティアの方へお手紙やホームの様子が分かる様グループホーム新聞を送り、



今後に繋がるようにしました。

(6) 元年度までは、他施設の運営推進委員会への参加などで交流し連携を図っていましたが、2年度は中止となりました。

(7) ホーム内勉強会は、毎月のスタッフ会議において管理者・看護師・リーダー研修修了者が中心となり行いました。

勉強内容…感染症・変形性膝関節症・レクリエーションの進め方・拘束・難聴・ボディメカニクスと腰痛体操・防災訓練・研究報告等

自分の介護に対しての振り返りを行ない、頑張ったところ・出来なかったところを書き出してもらいました（集計した結果をもとに意見交換をしました）。

(8) 防災訓練

10月の老健での防災訓練は、連絡のみとしました。グループホームでの防災訓練は、スタッフ全員が参加し実施しました。乾燥し火事が起こりやすい季節に重点を置き実施しました。訓練後は参加者全員で反省会を開き、利用者からの質問もあり、説明しました。

(9) ターミナルケアを実施しており、2年度も1人グループホーム内で実施させていただきました。常に主治医と連携をとり問題なく実施できました。

(10) その他

①施設内行事等

	活 動 内 容
4月	花見
5月	調理レクリエーション（サンドイッチ作り・たこ焼き作り）
6月	球技大会
7月	七夕・ミニ運動会
8月	
9月	敬老会
10月	焼肉パーティー
11月	
12月	クリスマス会（ケーキ作り） 餅つき（鏡もち作り）
1月	カラオケ大会・おやつ作りレク（クレープ作り）
2月	節分（豆まき・恵方巻き作り） おこしもの作り

3月	お花見ドライブ・お楽しみ食事会
その他	誕生会（入居者毎に実施）

②運営推進委員会 6月（老人保健施設内会議室において少人数で開催）

7月・9月・11月・1月・3月 推進委員メンバー及び家族へグループホームの状況を報告しました。

③外部評価実施（2月特定非営利活動法人あいち福祉アセスメントより調査）

### 3. 大府センター拠点



## 1. 認知症介護に関する研究事業

認知症高齢者の生活機能や行動等の特性、生活機能の維持改善を図るための介護技法等に関する研究開発や若年性認知症に対する社会的支援に関する研究、認知症ケアレジストリ研究等を推進してきました。

令和2年度においても、老人保健健康増進等事業の研究予算獲得と併せて関係機関等の研究資金の獲得に努めて研究に取り組むとともに、研究成果を広く介護関係施設等に周知しました。

### (1) 補助金等による研究事業の実施

以下のとおり、認知症に関する研究に取り組みました。

#### 1) 老人保健健康増進等事業（厚生労働省）

- ①若年性認知症支援コーディネーターの効果的な配置のあり方等に関する調査研究
  - ・全国の支援コーディネーターを対象に調査を実施し、配置状況と活動内容・活動成果との関係性を検証し、実態と課題を抽出。
  - ・地域包括支援センター、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、ハローワークを対象に調査を実施し、実態把握するとともに好事例を収集。
  - ・都道府県担当者へのアンケート調査を継続し、経年的推移を分析。
  - ・調査結果・ヒアリング結果を基に「若年性認知症支援コーディネーターの効果的な配置及び資質向上に向けて～実態分析と効果的な取り組み～」をまとめた。

#### ②認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究

（3センター協同）

- ・研修受講のメリット、受講・未受講による介護職員の働き方・役割等との関係性等を調査。
- ・認知症介護実践者研修・リーダー研修・指導者養成研修のアウトカム指標の設定を含む評価のあり方について検討。
- ・当センターは、指導者養成研修修了者活動実態調査及び活動好事例の収集・整理を担当。

#### 2) 運営事業費による研究（厚生労働省）

- ①介護サービス事業所における認知症利用者の社会参加活動を促進するリハビリテーションプログラムに関する研究
- ②地域在住高齢者の認知機能スクリーニングを目的とした、時計描画テストと手段的ADLを用いた質問紙の作成・普及に関する研究
- ③介護事業所における認知症の利用者の満足度評価に関する研究
- ④ケア現場における課題解決のためのツール作成と評価に関する研究
- ⑤認知症ケアレジストリ研究

#### 3) 科学研究費補助事業（文部科学省）

- ①感情表現の強さが制御された音声刺激による認知症患者の感情認知機能の評価（H29年度から継続）

- ②ロジックモデルを用いた高齢者施設のケア文化の指標の開発(分担研究)  
(R元年度から継続)

#### 4) 日本医療研究開発機構 (AMED) 認知症研究開発事業

- ①適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究(認知症ケアの標準化に関する研究)(H28年度から継続)

#### 5) あいちオレンジタウン構想事業(愛知県、大府市、東浦町)

- ①認知症介護指導者の活用強化に関する検討(H30年度から継続)

### (2) 令和元年度研究成果の報告

以下のとおり、関係者に対して研究成果の報告を行いました。

#### 1) 第18回認知症ケアセミナーの開催

令和元年度に実施した研究事業の7課題について、研究成果を報告しました。

なお、新型コロナ感染対策のため募集定員を抑えて実施しました。

- ・令和2年9月14日(月) ウィンクあいち
- ・参加者 約110名

#### 2) 認知症介護研究・研修3センター合同研究成果報告書の作成

3センター持ち回りで報告会を開催していましたが、本年度は、新型コロナ感染対策のため報告会は中止となりました。その代わりに、令和元年度に実施した研究課題について、当センターが担当して報告書として取りまとめ、関係各所へ配布しました。

## 2. 認知症介護に関する研修事業

### (1) 認知症介護指導者養成研修(厚生労働省の指定研修)

認知症介護基礎研修又は認知症介護実践研修の企画・立案に参画し、講義、演習、実習を行うことができる能力を身に付けるとともに、介護保険施設、事業所等における介護の質の改善について指導することができる者を養成することを目的として、平成13年度から実施しており、本年度においても以下の通り計画しましたが、新型コロナ感染対策のため、3回とも中止となりました。

- ・第1回 令和2年6月8日(月)～8月7日(金)
- ・第2回 令和2年8月24日(月)～10月23日(金)
- ・第3回 令和2年12月7日(月)～令和3年2月12日(金)

### (2) 認知症介護指導者フォローアップ研修(厚生労働省の指定研修)

日々進歩している最新の認知症介護技術や知識を一定期間ごとに認知症介護指導者に伝達し、第一線の介護従事者が最新の認知症介護技術を的確に修得できる体制を整えることを目的として、認知症介護指導者フォローアップ研修を実施しました。

- ・第1回 令和2年7月3日(金)～令和2年7月7日(火)

※新型コロナ感染対策のため、中止となりました。

- ・第2回 令和3年2月18日(木)～20日(土)、25(木)・26日(金)

※新型コロナ感染対策のためオンライン(Zoom)で開催しました。

- ・受講者数 12名

### (3) パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング(DCM)法研修

平成15年度から17年度まで「老人保健健康増進等事業」として、英国ブラッドフォード大学で開発されたケアの質を観察・評価する「パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング法研修」の有用性と普及の研究を実施しました。

その研究成果をもとに、日本での普及活動の拠点として、毎年「パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング法研修」を実施しており、今年度も以下のとおり計画しましたが、新型コロナ感染対策のため、両コースとも全て中止となりました。

[基礎コース]

- ・第1回 令和2年10月1日(木)～3日(土)

※第2回は、大府センターの共催で特定非営利活動法人シルバー総合研究所が担当。

- ・第3回 令和3年3月4日(木)～令和3年3月6日(土)

[上級コース]

- ・日程 令和2年11月19日(木)～21日(土)

### (4) その他研修事業

#### 1) スーパービジョン実践研修

認知症ケア現場の人材育成技法であるスーパービジョンについて、ロールプレイ等の演習を通して実践的に学ぶ研修会を開催しました。なお、全体は5回コースとし、第1回目は公開講座としました。また、新型コロナ感染対策のため、両コースともオンライン(Zoom)で開催しました。

[1日コース] ※公開講座

- ・日程 令和2年10月5日(月)
- ・受講者数 41名

[5日コース]

- ・日程 令和2年10月5日(月)、10月26日(月)、11月23日(月)、  
令和3年1月21日(木)・1月28日(木)
- ・受講者数 7名

#### 2) 災害時支援力向上研修

福祉避難所になりうる介護保険事業所を対象とし、災害時における災害弱者(認知症高齢者や家族等)への支援力を高めることを目的として実施する計画でしたが、講師が新型コロナの影響により対応不可となったため中止となりました。

- ・日程 令和2年11月4日(水)

### 3) 研究活動継続支援プログラム

本プログラムは、認知症介護指導者を対象に、ケア現場における課題解決に向けた研究活動を支援するもので、隔月の全体研究会と個別指導を組みあわせ、認知症ケア学会での発表をゴールとして実施しました。なお、新型コロナ感染対策のため、両コースともオンライン（Zoom）で開催しました。

- ・日程 令和2年6月全体会～令和3年5月頃に学会報告全体会  
※期間内に6回開催
- ・受講者数 11名

### 4) 時計描画テスト「5分で簡単チェックシート」紹介セミナー

運営費研究の研究成果としてまとめられた認知機能低下の評価ツールについての紹介セミナーを実施しました。なお、新型コロナ感染対策のため、両日ともオンライン（Zoom）で開催しました。

- ・日程 令和2年10月30日（金）、11月6日（金）
- ・受講者数 40名

## 3. 認知症介護に関する啓発活動、情報発信、連携活動

### (1) 啓発活動及び情報発信

#### 1) 講演会・シンポジウムの開催

介護関係者をはじめ広く一般の方々にも「認知症」について知っていただくために、認知症フォーラム（第15回）を開催しました。なお、新型コロナ感染対策のため募集定員を抑えて実施しました。

- ・日程 令和3年3月17日（水） ウィンクあいち
- ・参加者数 208名

また、一般に開放した研究報告会として、令和3年9月に認知症ケアセミナー（第19回）を開催し認知症に関する研究成果を発表しました。

※「1. 認知症介護に関する研究事業-(2)」に記載

#### 2) DCネット等による情報発信

認知症介護情報ネットワーク（DCネット）を通じて、あるいは認知症介護指導者大府ネットワーク、日本パーソン・センタード・ケア・DCMネットワークとの連携により、認知症介護に関する情報発信に取り組みました。

### (2) 認知症介護指導者大府ネットワーク等との連携活動

大府センターの認知症介護指導者養成研修修了生の自主的組織である大府ネットワーク（平成19年5月設立）においては、現在5ブロック（北陸・甲信・東海・近畿東・近畿西）で研究会や研修会等が開催され、認知症介護指導者間の連携が図られています。

また、認知症ケアマッピング（DCM）法研修修了生（ユーザー）の自主的組織である日本パーソン・センタード・ケア・DCMネットワーク（平成26年7月設立）



においても、全国規模でユーザー同士の研究会、研修会等、連携が図られています。

当センターの担当地域（15府県及び7指定都市）で活躍する認知症介護指導者の数は令和2年度末で879名、また、全国で活躍するDCMの基礎ユーザー及び上級ユーザーは令和2年度末で1,827名を数えており、大府ネットワーク並びにDCMネットワークの活動との連携は、当センターの運営上も重要であることから、両組織が実施する研修会活動等への参加・支援等により更なる連携を図りました。

#### 4. 若年性認知症に対する支援事業

大府センターでは、平成18年度から研究事業をはじめとして、若年性認知症に対する社会的支援等に関する各種の取り組みを行っていますが、本年度においても以下の事業について実施しました。

##### (1) 全国若年性認知症支援センターの運営（国事業）

###### 1) 若年性認知症コールセンターの運営

若年性認知症の人やその家族等に対する電話・メール相談支援及び相談内容に応じた適切な関係機関への連絡調整を実施しました。

- ・令和2年度の件数 1,205件（4.1件/日）
- ・若年性認知症コールセンターホームページの運営並びに令和2年事業報告書を作成し関係機関へ配布。

###### 2) 若年性認知症支援コーディネーター等に対する支援

###### ①相談支援

各都道府県・指定都市の施策担当者と若年性認知症支援コーディネーター（以下「支援コーディネーター」）、及び相談窓口の職員等に対して、相談支援を実施しました。

- ・令和2年度の件数 194件

###### ②支援コーディネーター研修

若年性認知症の人やその家族、企業等を支援するための施策の知識や相談支援のノウハウを習得するため、各都道府県・指定都市の施策担当者と支援コーディネーターを対象に、初任者研修とフォローアップ研修を実施しました。なお、新型コロナウイルス感染対策のため、オンライン（Zoom）で開催しました。

###### ○初任者研修

- ・日程 令和2年10月7日（水）～令和2年10月8日（木）
- ・受講者数 66名（行政担当者25名、コーディネーター41名）

###### ○フォローアップ研修

- ・日程 令和3年1月18日（月）～令和3年1月19日（火）
- ・受講者数 74名（行政担当者23名、コーディネーター51名）

###### ③情報共有システムの運用

支援コーディネーターの業務の効率化・負担軽減、活動状況の可視化、支援事例を蓄積し活用、その他各種情報の共有を図ることを目的とした情報共有システ

ムを、本年度から本稼働しました。

- ・相談記録システム(電子カルテ方式の共通シートを使用しデータベース入力)
- ・支援事例共有システム(Webサーバーを使用し支援事例を蓄積・共有)
- ・掲示板機能(研修会・資料等の情報について掲示板機能を活用し共有)

#### ④ネットワークづくり

広報誌を発行し、支援コーディネーターの活動に資する情報を提供するとともに、都道府県・指定都市や支援コーディネーターとの連携を推進し、併せて、支援コーディネーター間の連携が図られるよう支援しました。

### 3) 若年性認知症の普及・啓発等の推進

一般はもとより、若年性認知症の人を雇用する企業等に対しても若年性認知症の普及・啓発を図り、若年性認知症の人一人ひとりが、その状態に応じて適切な支援を受けられるよう啓発活動を推進しました。

## (2) 愛知県若年性認知症総合支援センターの運営(愛知県委託事業)

愛知県の委託事業として、愛知県内に居住または就業する若年性認知症の人やその家族等の支援とともに、若年性認知症自立支援ネットワーク事業を推進しました。

### 1) 相談支援

若年性認知症の人やその家族等に対する電話・来所・訪問での相談支援及び相談内容に応じた適切な関係機関への連絡調整を実施しました。

- ・令和2年度の件数 772件

### 2) 自立支援ネットワーク事業

#### ①会議の開催

医療、介護、福祉、雇用等の関係者による若年性認知症自立支援ネットワーク会議を開催し、連携を図りながら事業を推進しました。なお、新型コロナウイルス感染対策のため、書面開催としました。

第1回 令和2年8月、第2回 令和3年2月

※医療・介護・福祉・雇用の関係者等(委員14名)

#### ②研修の開催

支援担当者等関係者に対する若年性認知症自立支援ネットワーク研修を開催し、若年性認知症対応力の向上を図りました。

##### ○支援担当者向け研修

新型コロナウイルス感染対策のため、オンライン(Zoom)で開催しました。

- ・日程 令和2年12月10日(木)
- ・対象:市町村の認知症施策担当者・地域包括支援センター職員等
- ・受講者数 午前:初任者研修 75名  
午後:フォローアップ研修 64名

○障害者福祉施設向け研修

新型コロナ感染対策のため、関係者へ資料配布のみとしました。

- ・対象 障害者福祉施設等の職員

③県民向けの啓発

3月26日に蒲郡市の研修会に参加し啓発を行いました。なお、新型コロナ感染対策のため、録画方式により開催しました。

④実態把握

豊田市の本人・家族の会に参加のうえ意見交換し、若年性認知症の人のニーズ等を把握しました。相談支援に活かすとともに、専門職の研修や県民への啓発に反映させて行きます。

(3) あいちオレンジタウン構想に係る事業

1) 認知症対応力向上研修の実施研修

大府市・東浦町とともに、平成30年度に実施した認知症ケアに関するアンケート調査の結果を踏まえ、前年度に引き続き、認知症介護指導者と連携して介護保険事業所向けの研修を計画しましたが、新型コロナ感染対策のため中止となりました。

2) 若年性認知症の人への早期相談支援体制づくり

愛知県が推進する「あいちオレンジタウン構想」のアクションプランの一つとして、国立長寿医療研究センターと連携して、若年性認知症の人への早期相談支援体制づくりに取り組みました。

5. 身体拘束廃止推進事業（愛知県委託事業）

・権利擁護推進員養成研修

愛知県からの委託を受けて、介護施設における身体拘束廃止の取り組みをより効果的に推進させるため、施設内で指導的立場にある職員を対象に講義・演習・自施設実習を通じて、高齢者虐待防止法の趣旨の理解及び利用者の権利擁護の視点に立った介護に関する実践的手法を習得させ、介護現場での権利擁護のための取り組みを指導する人材を養成する研修を実施しました。

- ・日程 令和2年10月28日（水）・29日（木）、12月1日（火）
- ・受講者数 68名（施設長等34名、介護主任等34名）



## 4. サンサン大府拠点



## I. 施設 の 状 況

### 1. 指定障害福祉サービス開始日：平成20年4月1日

平成18年4月1日施行の障害者自立支援法（現在は障害者総合支援法に改正）に基づく新体系移行に伴い、就労移行支援（一般型）事業、就労継続支援（B型）事業のサービスを開始しました。

平成28年3月31日をもって就労移行支援（一般型）事業を廃止しました。

### 2. 指定障害福祉サービス(事業)名及び利用定員

- ・就労継続支援（B型）事業〔利用定員：39名〕

一般就労が困難な方等へ就労の機会を提供するとともに、生産活動を通じて社会的自立に向けた、知識や能力の向上に必要な福祉サービスを提供します。

### 3. 利用対象者（18歳以上）

- ・身体障がい者（肢体不自由、視覚、聴覚・言語、内部障がい）
- ・知的障がい者
- ・精神障がい者（発達障がい者を含む）
- ・難病等対象者

### 4. サービス提供職員の配置〔1日当たりの平均実利用者数 37.2名〕

※ 常勤換算基準数は、実利用者：職業指導員&生活支援員 = 10：1

事業所名 職 種	職員数 (兼務は主とした 職種を優先に表 記)	【常勤換算数】					
		専 従		兼 務		計	基準数
		職員	非常勤	職員	非常勤		
施設長 管理者	1	1.0（職業指導員兼務）					
サービス管理責任者	1	1.0	—	—	—	1.0	1.0
職業指導員	3	1.0	1.1	0.5	—	2.6	3.8
生活支援員	7	2.0	2.4	—	—	4.4	
目標工賃達成指導員	1	—	1.0	—	—	1.0	1.0
事務員	1	—	—	—	—	—	—
送迎運転手	1	—	—	—	—	—	—

## 5. 就労活動種目

項目	品目・製品	摘要	売上	対前年度比
印刷	一般印刷、帳票印刷、封筒印刷、名刺・ハガキ・カード印刷、封入～発送作業 他	官公庁及び民間医療機関、各種団体・事業所、個人	10,671 (千円)	75%
下請作業	自動車部品等のシール貼り及び組み付け、ゴムはめ、紙折り、花壇整備 他	大府市内外各事業所、(柗げんきの郷他	2,627 (千円)	87%
自主製品	洗顔セット、ボディーセット、ペットボトルオープナー 他	当施設、(柗げんきの郷売店他で販売	68 (千円)	19%
委託販売	・無添加石けん（白雪の詩） ・化粧石けん（さくやうさぎ）		371 (千円)	10%
その他	自転車整理（施設外支援） 他	大府市身障者協会（共和駅）	1,044 (千円)	115%
計			14,781 (千円)	67%

- ・平成25年4月1日「障害者優先調達推進法」が施行されました。行政機関（学校関係含む）からの契約件数は71件、契約金額は約379万円。対前年度比で件数は6件の減（8%減）、金額は約393万円の減（49%減）でした。（活動種目全体の約26%を占めています。）
- ・大府市敬老会、大府市福祉・健康フェア等、大府市主催の行事が新型コロナウイルスの影響で中止となり、売り上げが大幅に減少しました。

## 6. 年間行事

月	行事等
4	お花見中止（施設内にて昼食、レクリエーション）
5	—
6	—
7	—
8	ルミナス夏祭り中止（バザー出店中止）
9	大府市福祉・健康フェア中止（バザー出店中止）、障害者就職面接会中止
10	イオン東浦イエローレシートキャンペーン中止、防災訓練（2回）
11	名フィル福祉コンサート中止
12	年末食事会（大府市役所の多目的ホールにて昼食、レクリエーション）
1	お抹茶の会中止
2	障害者就職面接会中止
3	—

- ・新型コロナウイルスの影響で、ほとんどの年間行事が中止になりました。



## 7. 各種会議（毎月実施）

- ・ 工賃評価委員会… 利用者工賃の評価、見直し 他。
- ・ 指導委員会… 利用者の援助、支援内容の検討 他。
- ・ 職員会議… 施設運営と経営改善の協議 他。

## Ⅱ. 利用者の状況

### 1. 定員及び現員〔登録者〕

定員	現員〔登録者〕
39	48

### 2-1. 月別現員数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
初日の現員数	49	49	49	49	49	47	47	46	45	45	46	47
入所(通所)数	3			1						1	1	1
退所数	3			1	2		1	1				
月末の現員数	49	49	49	49	47	47	46	45	45	46	47	48

- ・ 退所者は8名（一般就労3、他施設を利用4、ご逝去1）
- ・ 4月の新規利用者は前年度の実習から結びついた方

### 2-2. 相談・見学、実習者の延べ人数

※ 相談・実習の（ ）の数値は利用に結びついた方

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談・見学	0	0	3	2	0	1	1	0	0	0	1	1	9
実習	0	0	2	2(1)	0	1	2	0	0	0(1)	0(1)	0(1)	7(4)

- ・ 1、2、3月の新規利用者は9、10月の実習から結びついた方

### 3. 障害者手帳の内訳

#### (1) - 1 身体障害者手帳

障害等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
現員〔登録者〕	14 (1)	6 (3)	5 (1)	0	0	1	26 (5)

- ・ （ ）の数値は知的障がいがある方

#### (1) - 2 上記の内訳

障害別	肢体	視覚	聴覚	内部	計
現員〔登録者〕	21	3	0	2	26

(2) 療育手帳

障害等級	A	B	C	計
現員〔登録者〕	6 (1)	10 (1)	7 (3)	23 (5)

・ ( ) の数値は身体障がいがある方

(3) 精神障害者保健福祉手帳

障害等級	1級	2級	3級	計
現員〔登録者〕	0	2	2	4

(4) 難病

脊髄小脳変性症、網膜色素変性症、球脊髄性筋委縮症、筋緊張性ジストロフィー、パーキンソン病の5名。

(身体障がい4名、身体障がいと知的障がいの重複1名)

4. 性別・年齢

区分 性別		年 代 別							計 (比率)
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70～	
現員 〔登録者〕	男	2	5	6	7	7	6	1	34 (71%)
	女	2	4	2	1	2	1	2	14 (29%)
	計	4	9	8	8	9	7	3	48 (100%)

5. 市町別

市 町	人 数	市 町	人 数
大府市	25	東浦町	11
知多市	7	阿久比町	1
東海市	3		
知立市	1		
常滑市	0	計	48

## 6. 通所方法

通所方法	人数
送迎車利用(市外)	9
〃 (大府駅西)	5
〃 (共和)	3
〃 (長草)	2
〃 (市内その他)	5
自家用車	0
自転車・徒歩・循環バス	14
家族送迎	10
福祉有償運送(他施設)	0
計	48

## 7. 利用の経路

経路	人数
仁至会授産所から継続	5
特別支援学校、専門学校	14
障がい者相談支援センター	14
各市町	6
名古屋市リハビリテーションセンター	2
障害者生活支援センター(らいふ)	3
障害者就業・生活支援センター(ワーク)	0
他事業所から引き継ぎ	1
本人・家族、その他(東和荘、みけす、知人紹介他)	3
計	48

## 8. 一般就労

	事務系	軽作業	その他(在宅含む)	計
平成28年度	0	0	1	1
29	0	0	0	0
30	0	0	0	0
令和元年度	0	0	0	0
2	0	2	1	3
計	0	2	2	4

- ・平成20年～27年は就労移行支援事業も実施(多機能型)。
- ・令和2年度のその他の1名は、当施設の生活支援員として障害者雇用枠で採用しました。

## 9. 利用者工賃向上計画(平均月額)

	29年度	30年度		令和元年度		2年度	
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
愛知県	15,297	—	16,650	—	16,888	—	集計中
当施設	15,861	15,902	15,107	15,964	14,143	15,981	15,376
(参考:全国)	15,603	—	16,118	—	16,369	—	集計中

- ・実績は、①1ヶ月の途中で入退所をした利用者、②1ヶ月の利用が極端に少ない利用者は除いています。

【参考】 実工賃（利用者が1ヶ月に1日でも利用した時の工賃）

	年 度 別 平 均						
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	2年度
全体の月額（円）	533,373	518,686	529,625	539,557	624,408	632,613	676,072
対象者（人）	35.3	34.2	34.8	35.2	41.3	48.3	47.2
月額（1人当たり）	15,131	15,181	15,205	15,343	15,107	13,111	14,334

- ・ 最高月額：69,130円、最低月額：140円（特別手当を含む）

## 10. 利用率

※ 定員39名に対する1日当たりの利用率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
平成30年度	79.2	82.8	83.6	84.4	81.0	88.7	87.2	88.2	88.7	87.7	86.4	89.2	85.6%
令和元年度	92.6	89.2	91.3	93.8	89.0	91.5	97.9	100.8	98.2	94.1	91.0	92.1	93.5%
2年度	96.2	99.7	97.9	97.9	94.1	93.1	91.5	93.8	94.6	91.8	96.2	98.5	95.4%

- ・ 在宅支援、送迎の配慮等により、新型コロナウイルスの影響をあまり受けずに、利用率を確保することができました。

（参考：福祉医療機構（WAM）データより、平成27年度の全国就労移行支援・継続支援事業所の平均定員は31.6名、平均利用率は80.5%。）

## Ⅲ. その他

### 1. 体験学習等の受け入れ

- ・ もちのき特別支援学校（高等部） 就労体験（10月 11名）
- ・ // 就労体験（12月 10名）

### 2. 施設外作業、施設外支援

#### ・ 施設外作業【継続】

- ① 株式会社げんきの郷にて、花壇の草取り・水やり等の作業  
（平成24年6月1日から取り組み開始。令和2年度は155日間実施）
- ② げんきの郷に出荷している個人事業者の鉢植えの水やり等の作業  
（平成30年2月8日から取り組み開始。令和2年度は35日間実施）
- ③ 認知症介護研究・研修大府センターの花壇の草取り・水やり等の作業  
（平成30年6月1日から取り組み開始。令和2年度は45日間実施）
- ④ 認知症介護研究・研修大府センターの居室清掃・ベッドメイク  
（令和元年7月10日から取り組み開始。令和2年度は8日間実施）
- ⑤ ルミナス大府（老健）の清掃・衣類等取り次ぎ作業・ベッドメイク  
（令和2年2月1日から取り組み開始。令和2年度は清掃143日間、衣類等取り次ぎ76日間、ベッドメイク61日間実施）

・施設外支援【継続】

共和駅駐輪場の自転車整理

(平成20年9月1日から取り組み開始)